

多賀城市埋蔵文化財調査センター年報

—平成 30 年度—

2019年12月

多賀城市埋蔵文化財調査センター

序 文

多賀城市埋蔵文化財調査センターは、開設以来市内遺跡の発掘調査、展示や歴史学習を中心とした普及啓発、歴史・民俗資料の収集・保管・公開など、文化財保護事業を推進してきました。

また、平成 19 年度に開館した埋蔵文化財調査センター体験館（多賀城史遊館）では、市内出土資料による通史展示を行うとともに、常時実施している歴史的な体験学習やイベントを通して、文化財へのより一層の关心と理解が深まることを目的としております。

さて、本書は平成 30 年度に実施した文化財の保存と活用に関する各種事業について、その概要をまとめたものです。

調査につきましては、34 件の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存に努めてまいりました。また、平成 25 年度から開始した歴史遺産調査については、旧南宮・山王村の石造物や民俗資料等の調査を行い、地域に眠る貴重な歴史資源の保護を行っております。

展示につきましては、山王遺跡千刈田地区が特別史跡に追加指定されてから 25 周年という事から、古代の多賀城と国司の館をテーマにした企画展を開催しました。また、初めての試みとして、市内で最初に歴史遺産調査を実施した八幡村を対象に、その成果をまとめた資料展を開催しました。さらに、発掘調査速報展も例年どおり開催し、これまで継続してきた地道な調査研究成果を社会に還元すべく努めております。

普及啓発活動につきましては、歴史学習を実施するとともに、新たな歴史体験学習メニューも開発し、学校や市民団体等とも連携を図りながら、本市の歴史をさらに PR できるよう新たな企画の創出を図っております。

これらは、文化財が次の世代へ継承され、市民が市の歴史と文化に誇りを持つという本市の目指す姿に寄与すべく今後も日々地道な活動を続けてまいる所存です。

結びに、日頃より当センターの運営につきまして御指導・御協力を頂いております多くの方々に対し、厚く感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和元年 12 月

多賀城市埋蔵文化財調査センター

所長 伊藤 文昭

例　　言

- 1 本書は、宮城県多賀城市埋蔵文化財調査センターが平成 30 年度に実施した調査、展示、普及啓発事業、資料管理など各種事業についての概要をまとめたものである。
- 2 本書で使用した遺跡地図は、1/1,000 の多賀城市都市計画図（平成 22 年度版）を複製して作成した。
- 3 本書は小原一成が編集し、編者以外が執筆した箇所については目次に示した。

目　　次

| | |
|----------------------------|------------------|
| 1 調査 | |
| (1) 発掘調査概要 | 1 |
| (2) 周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更 | 5 |
| (3) 歴史遺産調査概要 | 5 (千葉孝弥・早坂優子) |
| 2 展示 | |
| (1) 展示概要 | 9 (武田美咲・小原(一)) |
| (2) 常設展 | 10 (岩谷綾美・小原(一)) |
| (3) 速報展 | 10 (阿部由佳・丹野修太) |
| (4) 企画展 | 14 (岩谷・小原駿平) |
| (5) 資料展 1 | 19 (岩谷・武田・瀧川ちかこ) |
| (6) 資料展 2 | 22 (武田・早坂) |
| (7) 天童氏系図複製記念パネル展 | 25 (瀧川) |
| 3 普及啓発活動 | |
| (1) 普及啓発活動概要 | 26 (武田・小原(一)) |
| (2) 歴史学習 | 27 (岩谷・小原(一)) |
| (3) 遺跡調査報告会 | 28 |
| (4) 歴史講座 | 28 (早坂・小原(駿)) |
| (5) 刊行物 | 29 |
| (6) 講演会等への協力 | 29 |
| (7) 研究発表・執筆など | 29 |
| 4 資料管理 | |
| (1) 資料の貸出及び掲載 | 30 |
| (2) 資料調査の受け入れ | 30 |
| (3) 収集(寄贈)資料 | 31 |
| (4) 出土資料の保存処理 | 31 (小原(駿)) |
| (5) 埋蔵文化財保存活用整備事業 | 31 (小原(駿)) |
| 5 事務報告 | |
| (1) 平成 30 年度事業費内訳(実績) | 32 |
| (2) 組織・職員体制 | 32 |
| 附章 市川橋遺跡 SE2010 井戸跡出土の古代土器 | 33 (小原(駿)) |

1 調査

(1) 発掘調査概要

平成 30 年度の発掘調査届出件数は 157 件であり、93 条は 152 件、94 条は 5 件である。このうち、発掘調査に及んだのは 34 件で、調査面積の合計は約 25,142 m²である。その事業種別の内訳は、国庫補助事業が 23 件、復興交付金事業が 2 件、受託事業が 5 件、大区画は場整備事業に伴う調査が 2 件（事業数としては 1 件）、市単独事業が 2 件である。

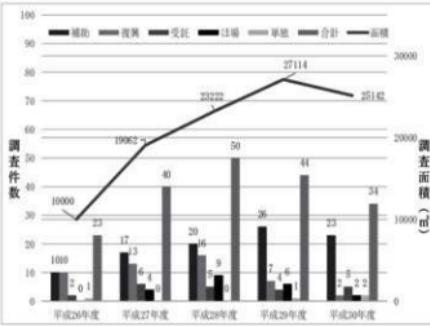
新田遺跡では、8 件の発掘調査を実施した。第 127 次調査では、古墳時代後期頃の竪穴住居跡を発見した。過去の調査においても、この周辺で古墳時代中期から後期にかけての遺構が確認されていることから、当該期の集落が存在したものと考えられる。

山王遺跡では、10 件の発掘調査を実施した。第 199 次調査では、中世の並行する溝跡を発見した。第 200 次調査では、掘立柱建物跡、井戸跡、土壌などを発見した。第 203 次調査では、これまでの調査に基づく推定線上で、南 1 道路跡を発見した。第 204 次調査では、古代の掘立柱建物跡などを発見した。

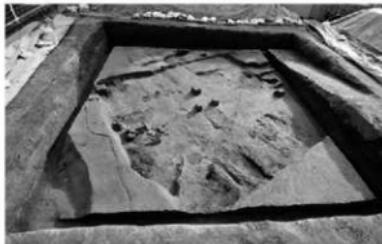
平成 27 年度から継続している多賀城地区大区画は場整備事業に伴う調査（山王遺跡第 178・198 次調査）では、多賀城南面に広がるまちなみの南側一帯を調査した。この調査では、各南北道路を発見したほか、新たな東西道路が 2 条発見され、方格地割の様相について新たな知見が得られた。また、居住域と生産域の分布が明らかになるなど、土地利用のあり方を検討する重要な成果が得られた。

市川橋遺跡では、2 件の発掘調査を実施した。第 96 次調査では、多賀城南面に広がる道路網のうち、西 3 道路跡や北 2 道路跡を発見した。また、区画内から南廂付きと考えられる掘立柱建物跡や、側板を持つ井戸跡を複数発見した。建物の南側に位置する池状の落ち込みからは、完形の土器が 100 点近く出土した。

八幡館跡では、近接した 4 件の発掘調査を実施し、古墳時代後期の竪穴住居跡を発見した。



過去 5 カ年度における調査件数と面積の推移



新田遺跡第 127 次調査 竪穴住居跡完掘状況



新田遺跡第 127 次調査 竪穴住居跡完掘状況



山王遺跡第178次調査 遠景



山王遺跡第178次調査 東西道路跡検出状況



山王遺跡第178次調査 掘立柱建物跡検出状況



山王遺跡第178次調査土壤内遺物出土状況



山王遺跡第178次調査 小溝群検出状況



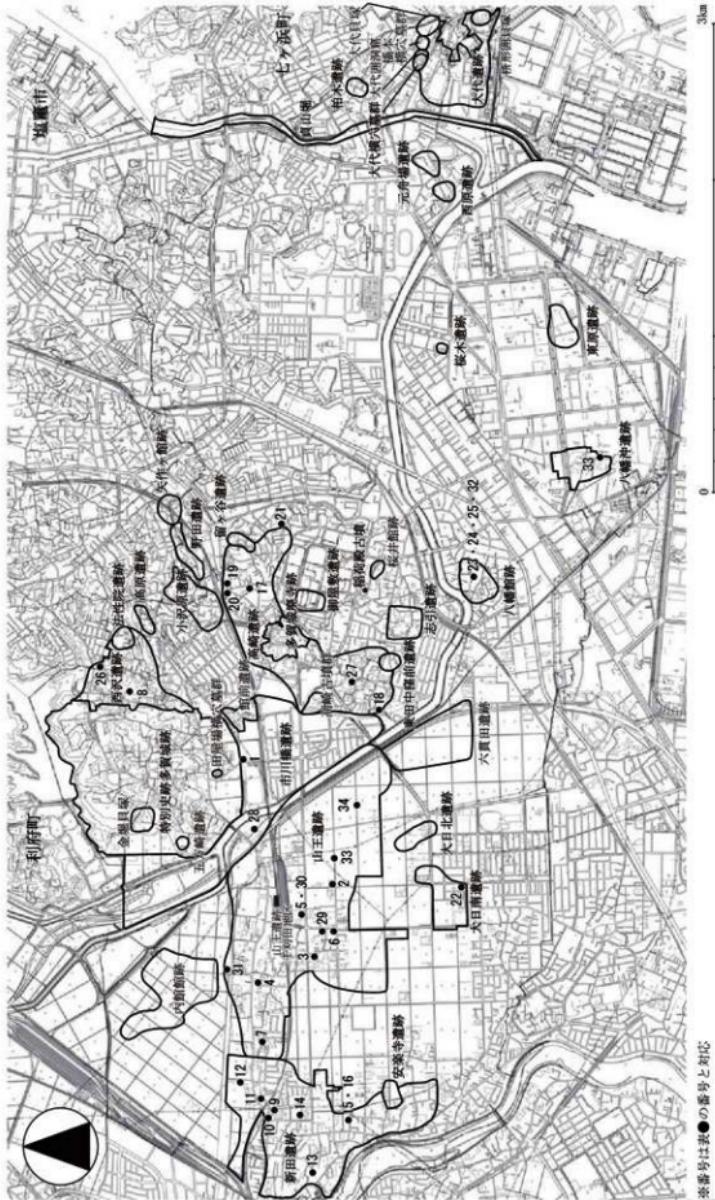
市川橋遺跡第96次調査 全景



市川橋遺跡第96次調査 西3道路跡検出状況



八幡館跡第10次調査 整穴住居跡完掘状況



調査地点の位置

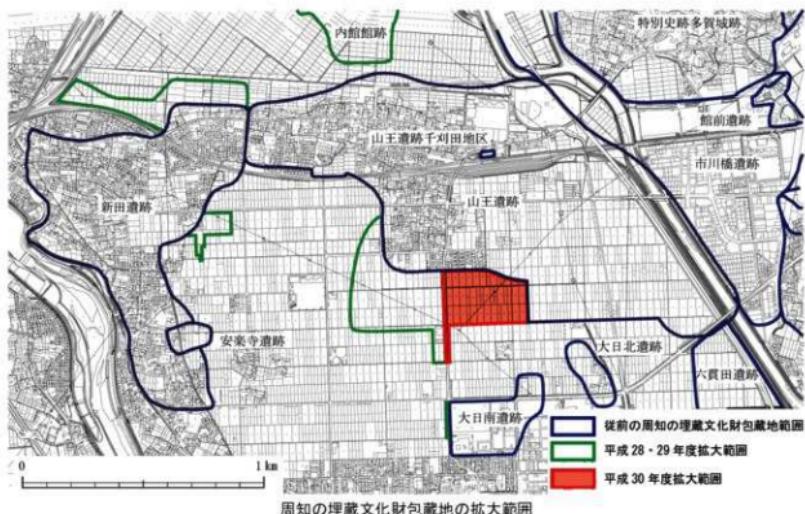
参考番号は表●の番号と対応

発掘調査一覧

| 番号 | 事業者 | 調査名 調査水敷 | 所在地 調査期間 | 調査面積 調査原因 | 主な時代 主な遺構 | 調査内容 主な遺物 | 所轄 報告書等 |
|----|-----|---------------|---|-----------------------------------|---|---|--|
| | | | | | | 本年度調査 | |
| 1 | 単独 | 市川橋跡 第97次 | 市川字細町前、浮島子手中央地内 平成30年9月9日～10月16日 | 20m ² 上水道工事 | 古代 遺跡 | 本年度調査、確認調査 | |
| 2 | 単独 | 山王遺跡 第204次 | 山王字山王西4区95番 平成31年4月26日～5月31日 | 185m ² (道床及びブランケット) | 古代、近世 個人住宅建設 | 本年度調査、確認調査、堆積土層、洋器、古鉢、散瓦 | |
| 3 | 国 | 山王遺跡 第201次 | 山王字山王西-5区135番5 平成29年4月14日～5月17日 | 36m ² | 時期不明 | 本年度調査 | 143集 |
| 4 | 国 | 山王遺跡 第202次 | 浮島字町23-9一部 平成30年8月21日～9月26日 | 61m ² | 古代、近世 個人住宅建設 | 本年度調査 | 143集 |
| 5 | 国 | 山王遺跡 第203次 | 山王字山王西二区58、59番 平成30年8月25日～9月5日 | 30m ² | 古代 | 確認調査 | 143集 |
| 6 | 国 | 山王遺跡 第204次 | 山王字山王西-5区136番2、3 甲山T3-3 | 68m ² | 古代 | 本年度調査 | |
| 7 | 補助 | 山王遺跡 第205次 | 山王字西4区10番6番 平成30年12月13日～12月19日 | 100m ² | 古代 施設造成工事 | 確認調査 | 143集 |
| 8 | 補助 | 西沢遺跡 第35次 | 市川字伊勢石27番10、29番4 平成30年4月12日 | 25m ² | — | 確認調査 | 143集 |
| 9 | 国 | 新田遺跡 第12次 | 山王字北緑ヶ原3番2、80番1 平成30年5月14日～5月25日 | 139m ² | 時期不明 | 確認調査 | 143集 |
| 10 | 補助 | 新田遺跡 第124次 | 山王字北緑ヶ原3番2、80番1 平成30年5月11日～6月20日 | 100m ² | 個人住宅建設 | 本年度調査 個人住宅、施設造成 | 143集 |
| 11 | 補助 | 新田遺跡 第125次 | 山王字北緑ヶ原14番5、14番7 平成30年7月11日～7月17日 | 17m ² | 古代 個人住宅建設 | 本年度調査 | 143集 |
| 12 | 国 | 新田遺跡 第126次 | 浮島字東29番1、229番2 平成30年9月5日～9月26日 | 28m ² | 時期不明 個人住宅建設 | 本年度調査 土師器 | 143集 |
| 13 | 補助 | 新田遺跡 第127次 | 新田字西32番2 平成30年11月5日～12月26日 | 64m ² | 古墳時代 個人住宅建設 | 本年度調査 土師器 | |
| 14 | 国 | 山王遺跡 第129次 | 山王字北緑ヶ原街1、6番4、 7番1、8番1 平成31年2月27日～3月19日 | 120m ² | 中世 | 確認調査 | |
| 15 | 補助 | 新田遺跡 第130次 | 新田字西20番1 平成31年3月1日 | 4m ² | 個人住宅建設 | 確認調査 | |
| 16 | 補助 | 新田遺跡 第131次 | 新田字西20番6 平成31年3月6日 | 9m ² | 個人住宅建設 | 確認調査 | |
| 17 | 国 | 高崎遺跡 第11次 | 高崎一丁目11番6番 平成30年6月14日 | 73m ² | 個人住宅建設 | 本年度調査 | 143集 |
| 18 | 国 | 高崎遺跡 第116次 | 東田中一丁目40番、45番、 46番 平成31年3月6日 | 66m ² | — | 確認調査 | |
| 19 | 国 | 高崎遺跡 第117次 | 篠ヶ谷一丁目22番1 平成31年3月6日～3月6日 | 9m ² | 宅地造成工事 | 確認調査 | |
| 20 | 補助 | 高崎遺跡 第118次 | 篠ヶ谷一丁目22番1 平成31年3月6日 | 12m ² | 個人住宅建設 | 確認調査 | |
| 21 | 国 | 高崎遺跡 接種地 | 篠ヶ谷一丁目64番、69番、 75番、77番一部 平成30年6月16日 | 40m ² | — | 試掘調査 | 143集 |
| 22 | 国 | 天日南遺跡 第14次 | 赤坂四丁目19番8 平成30年6月26日 | 7m ² | — | 試掘調査・確認調査 | 143集 |
| 23 | 国 | 八幡遺跡 第11次 | 八幡二丁目335番1 平成30年10月22日～11月29日 | 42m ² | 古墳時代 個人住宅建設 | 本年度調査 土師器、須恵器、瓦、鐵 文鏡、羽口 | 143集 |
| 24 | 国 | 八幡遺跡 第12次 | 八幡二丁目335番2 平成30年10月22日～11月29日 | 37m ² | 古墳時代 個人住宅建設 | 本年度調査 土師器、須恵器、瓦、鐵 文鏡、羽口 | 143集 |
| 25 | 国 | 八幡遺跡 第13次 | 八幡二丁目335番3 平成30年10月22日～11月29日 | 21m ² | 古墳時代 個人住宅建設 | 本年度調査 土師器、須恵器、瓦、鐵 文鏡、羽口 | 143集 |
| 26 | 国 | 西沢遺跡 第36次 | 赤坂字伊勢石55番、 浮島字西4区69番の一部 平成30年7月24日～8月1日 | 350m ² | 古代 | 確認調査 | |
| 27 | 復興 | 高崎遺跡 第11次 | 高崎一丁目63番2 平成30年8月27日 | 1m ² | — | 確認調査 | |
| 28 | 受託 | 市川橋跡 第96次 | 市川字代石6番9 平成30年4月1日～ 平成31年3月31日 | 4,500m ² | 古代 | 本年度調査 土師器、須恵器、瓦、鐵 文鏡、三足陶器、不製品、 墨書き土器 | 1000戸貸付私道 施設造成工事 委託会 第45回古代 埋蔵文化財 解説会 |
| 29 | 受託 | 山王遺跡 第199次 | 南首字町42番2、42番3 平成30年4月11日～4月28日 | 50m ² | 中世、近世 鐵、土壌 | 本年度調査 鐵貨、円底鏡、鐵質 | 142集 |
| 30 | 受託 | 山王遺跡 第200次 | 西沢74番18地15番 平成30年8月21日～12月22日 | 4,850m ² | 古代 | 本年度調査 土師器、須恵器、綠釉陶器、 円形陶器、獸耳 | 142集 |
| 31 | 受託 | 山王遺跡 第206次 | 南首字町70番地11番 平成31年3月5日～3月7日 | 125m ² | 古墳時代 鐵工事 | 本年度調査 土師器、須恵器 | |
| 32 | 受託 | 八幡遺跡 第10次 | 八幡二丁目地内 平成31年2月1日～3月31日 | 1,500m ² | 古墳時代 宅地造成工事 | 本年度調査 土師器、須恵器 | 142集 |
| 33 | 国 | 山王遺跡 第178次 | 山王字山王西4区地内15番 平成30年4月12日～ 平成31年5月25日 | 6,260m ² | 古墳時代 道跡跡、櫛立柱跡物跡 堅穴住居跡、井戸跡、 區域標識、小塚 | 本年度調査、確認調査 | |
| 34 | 国 | 山王遺跡 第198次 | 西沢字多賀前8 平成30年6月12日～ 平成31年3月25日 | 6,235m ² | 古代 | 本年度調査、確認調査 土師器、須恵器、木製品 | 900戸貸付私道 施設造成工事 委託会 第45回古代 埋蔵文化財 解説会 |

(2) 周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更

多賀城地区大区画は場整備事業に伴い、山王遺跡南側隣接地の試掘・確認・本発掘調査を実施した結果、古代の道路跡、溝跡、土壤や烟に関連すると考えられる小溝等を発見した。これらは山王遺跡を中心に広がる古代の方格地割の構成要素と理解されることから、遺跡の範囲に含め、山王遺跡の範囲を拡大する。



(3) 歴史遺産調査概要

① 調査に至るまでの経緯

多賀城市では、昭和 62 年、市町村としては東北地方で最初となる埋蔵文化財調査センターを設立し、専門職員を配置して発掘調査及び調査研究を行うとともに、歴史・民俗資料の収集や、文化財展示等の普及啓発活動も併せて行う体制の整備を進めてきた。開発行為等の増加に伴い、埋蔵文化財の調査成果は着実に蓄積し現在に至っているが、それ以外の文化財に対しては調査研究が不十分という問題があった。

このような現状を受け、埋蔵文化財以外の文化財の調査研究を進め、多様な資料を用いながら本市の歴史の理解をより豊かなものにするため、平成 25 年度から歴史遺産調査を開始した。

この調査は、資料ごとに調査・報告をするのではなく、様々な資料を地域ごとに調査・報告する形式をとっている。本市には、江戸時代 13 の村があり、この単位が地域ごとの特色を明らかにするために有効であると考えられ、調査もこの村ごとに進めることとした。

主な調査対象は、供養塔、墓標といった石造物、棟札や絵馬などの札類、寺社仏閣などの建造物、地域の行事や慣習、それらに付随する民俗資料、絵図・古地図、古文書などである。これらの資料を地域ごとにまとめるこにより、一地域における資料の在り方を把握し、そこから地域の歴史を描くことを目的としている。



13か村位置図



石造物調査



建造物調査



仏像調査



民俗調査



石造物



神社の祭礼

歴史遺産調査によって資料化した点数（平成 25～29 年度）

| 種別 | 石造物 | | | | | | | | 民俗資料 | | | | | | | | 市外 流出 資料 |
|------|-----|----------------------------|----------|----------|-----------|----|------------------|-----------|------|----|----|----|-----------|-----------|----------|------------|----------------|
| | 板碑 | ほか水鉢塔 ・顕石 ・彫灯 ・碑籠 | 供養 墓標 | 石材 調査 | 棟札 ・扁額 | 絵馬 | 公文図書 館資料 館 | 札類 (紙) | 絵図 | 金工 | 仏像 | 講 | 祭礼 ・行事 | 轍 ・掛軸等 | 生業 調査 | 聞き取り 調査 | |
| 八幡村 | 9 | 83 | 44 | 130 | 22 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 7 | 15 | 14 | 12 | 0 | 37 | 0 |
| 笠神村 | 2 | 46 | 32 | 68 | 16 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 1 | 6 | 8 | 2 | 0 | 24 | 0 |
| 下馬村 | 0 | 6 | 15 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 2 | 0 | 16 | 0 |
| 大代村 | 1 | 50 | 0 | 50 | 14 | 0 | 5 | 5 | 0 | 1 | 0 | 7 | 5 | 4 | 1 | 26 | 0 |
| 留ヶ谷村 | 1 | 38 | 125 | 155 | 12 | 32 | 2 | 0 | 0 | 1 | 12 | 4 | 6 | 6 | 0 | 17 | 4 |
| 高崎村 | 8 | 59 | 24 | 91 | 6 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 6 | 10 | 0 | 17 | 0 |
| 田中村 | 2 | 14 | 106 | 121 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | 2 | 1 | 0 | 14 | 0 |
| 高橋村 | 8 | 29 | 11 | 47 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 2 | 1 | 6 | 1 | 0 | 0 | 16 | 0 |
| 新田村 | 21 | 31 | 71 | 149 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 6 | 18 | 0 | 19 | 0 |
| 合計 | 52 | 356 | 428 | 815 | 80 | 32 | 25 | 5 | 1 | 4 | 22 | 56 | 49 | 55 | 1 | 186 | 4 |

②平成 29 年度までの調査成果

平成 25・26 年度に八幡村、平成 27 年度に大代・笠神・下馬村、平成 28 年度に留ヶ谷・高崎・田中村、平成 29 年度に高橋・新田村の調査を行い、今まで確認していなかった多くの文化財を資料化することができた。平成 29 年度までの調査によって資料化した文化財は上記の表の通りである。

また、これらの地域の調査成果を収録した報告書の刊行、関連する展示の開催（第 2 章第 6 項参照）により、広く調査成果の普及啓発を図っている。

報告書一覧（平成 25～29 年度）

| 刊行年度 | 報告書名 | |
|--------|-------------------|------------------------------------|
| 平成25年度 | 多賀城市文化財調査報告書第118集 | 多賀市の歴史遺産 八幡村(一) |
| 平成26年度 | 多賀城市文化財調査報告書第123集 | 多賀市の歴史遺産 八幡村(二) |
| 平成27年度 | 多賀城市文化財調査報告書第130集 | 多賀市の歴史遺産 笠神村 下馬村 |
| 平成28年度 | 多賀城市文化財調査報告書第136集 | 多賀市の歴史遺産 大代村 笠神村牛生 留ヶ谷村 高崎村 田中村 |
| 平成29年度 | 多賀城市文化財調査報告書第141集 | 多賀市の歴史遺産 高橋村 新田村 |

③平成 30 年度調査成果

平成 30 年度は、南宮・山王村の調査を行い、資料化した文化財は次の通りである。南宮地域の調査では、慈雲寺が所蔵する黄檗宗寺院大年寺の扁額や聯（れん）をはじめ、南宮神社の社殿に納められている絵馬、祈祷札、寄進札など、今まで資料化されていなかった文化財の調査を行うことができた。また、市外では、黒川郡大和町鶴巣のサンノウヤマ（山王山）に建立された山神塔の調査を行った。サンノウヤマは、山王・南宮・仙台市岩切の山の神講の共有地であり、燃料となる薪を刈っていた。これにより、それぞれの地域以外での人々の暮らしの動的な一面を記録することができた。

歴史遺産調査によって資料化した点数（平成 30 年度） ※空白は未調査

| 種別 | 石造物 | | | | | | 民俗資料 | | | | | | | 市外 流出 資料 | | | |
|-----|-----|--|----|----------|-----------|----|------------------|-----------|----|----|----|------------------------|------------------|-----------------------|---|----|---|
| | 板碑 | ほ手供 か水養 鉢塔 ・ 顯石 彰灯 碑籠 ・ | 墓標 | 石材 調査 | 棟札 ・扁額 | 絵馬 | 公文書 （県 資料） | 札類 (紙) | 絵図 | 金工 | 仏像 | 講 祭 禮 ・ 行事 | 職 業 調 査 | 聞 取 り 調 査 | | | |
| 南宮村 | 3 | 39 | 0 | | 44 | 3 | | 0 | 0 | 4 | | 9 | 4 | 8 | 0 | 37 | 0 |
| 山王村 | 3 | 8 | 2 | | 3 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | 5 | 1 | 0 | 0 | 10 | 0 |



サンノウヤマ（山王山）の山神塔



慈雲寺境内の供養塔（南宮）

④今後の調査予定

令和元年度は、市川・浮島村の調査を行う予定である。この 2 か村の調査を終えると、平成 25 年から始まった歴史遺産調査はすべての地域を一巡し、一通りの市内の文化財の概要を把握することができる。報告書については、「多賀城史の歴史遺産 山王村 南宮村」「多賀城史の歴史遺産 市川村 浮島村」の 2 冊を刊行後、これまでの調査成果をまとめた総括編を刊行予定である。

2 展示

(1) 展示概要

平成 30 年度は、多賀城市埋蔵文化財調査センター及び多賀城史遊館で常設展を展示したほか、考古学資料を中心とした企画展、文献史料や民俗資料を中心とした資料展を開催した。特筆すべきものとして、企画展は、国守館推定地である山王遺跡千刈田地区が特別史跡に追加指定されてから 25 周年の節目にあたることもあり、「古代の多賀城と国司館」をテーマとして開催した。冬季に開催した資料展 2 は、平成 25 年度より継続している歴史遺産調査の成果を一般に公開する展示の第一弾である。多賀城旧 13 か村のうち、最初に調査着手した八幡村の成果をもとに「地域の文化財一八幡村一」をテーマとして開催した。

市立図書館では、東北歴史博物館で開催された「東大寺と東北」展と関連した小展示を開催した。また、富士ゼロックス株式会社による文化伝承活動の一環として複製が行われた「源姓最上天童氏系図」を、市役所 1 階ロビーで展示了。

平成 30 年度の埋蔵文化財調査センター展示室の来館者数は総数 7,763 名であり、1 日あたりの平均来館者は約 27 名であった。特に企画展開催期間中の 10・11 月の来館者が多い傾向にあり、例年客足が伸び悩む冬季間においても、地元小中学校の団体見学が行われたこともあり、一定数の来館者が認められた。

平成 30 年度展示年間スケジュール

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------------|--|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|----|--|-----|-----|-----|----------------------|----|----|
| 埋文 2階展示室 | 常設展「古代都市多賀城」 | | | | | | | | | 資料展 2 1月12日～1月12日 | | |
| 埋文 3階展示室 | | 企画展 「源姓最上天童氏系図」 1月12日～1月29日 | | 企画展 「資料展からみた多賀城の歴史」 3月10日～4月30日 | | 企画展 「考古資料からみた多賀城の歴史」 5月10日～6月30日 | | | | | | |
| 史遊館 第1展示室 | 常設展「考古資料からみた多賀城の歴史」 | | | | | | | | | | | |
| 史遊館 第2展示室 | | | 常設展「民歩資料からみた多賀城の歴史」 7月1日～8月29日 | | | | | | | | | |
| その他 | 「東大寺と東北」 関連企画(古文書館) 9月1日～9月4日 2日 (1回)～平成30年9月6日 2日 (2回) 「源姓最上天童氏系図」複製品の展示公開(市役所) 平成30年9月4日 1日 (1回)～8月29日 1日 (1回) | | | | | | | | | | | |

埋蔵文化財調査センター展示室入館者数

| | 開館 日数 | 一般 | 高校 | 小中 | 計 |
|-----|----------|-------|-----|-------|-------|
| 4月 | 26 | 276 | 5 | 46 | 327 |
| 5月 | 26 | 424 | 1 | 126 | 551 |
| 6月 | 26 | 695 | 20 | 72 | 787 |
| 7月 | 26 | 569 | 11 | 260 | 840 |
| 8月 | 21 | 459 | 12 | 97 | 568 |
| 9月 | 26 | 655 | 14 | 78 | 747 |
| 10月 | 26 | 762 | 8 | 206 | 976 |
| 11月 | 26 | 650 | 24 | 135 | 809 |
| 12月 | 23 | 303 | 0 | 71 | 374 |
| 1月 | 16 | 432 | 6 | 37 | 475 |
| 2月 | 24 | 487 | 5 | 135 | 627 |
| 3月 | 26 | 413 | 1 | 268 | 682 |
| 合計 | 292 | 6,125 | 107 | 1,531 | 7,763 |

埋蔵文化財調査センター展示室研修一覧

| | 日付 | 依頼機関 | 人数 |
|----|--------|---------------|----|
| 1 | 4月5日 | 多賀城市新採職員研修 | 19 |
| 2 | 5月31日 | 国家公務員初任者研修 | 3 |
| 3 | 5月31日 | 大衡村立大衡小学校6年 | 47 |
| 4 | 6月15日 | 戸上町教育委員会 | 13 |
| 5 | 6月22日 | 島根県八雲立石風土記の丘 | 23 |
| 6 | 8月5日 | 興沢城地権者の会 | 21 |
| 7 | 8月21日 | 新規採用・転入教職員 | 46 |
| 8 | 8月30日 | 史遊館ボランティアの会 | 10 |
| 9 | 9月11日 | 明治大学史解実習生 | 1 |
| 10 | 9月21日 | クラブツーリズム | 16 |
| 11 | 9月27日 | 東北大学生、黒職員 | 10 |
| 12 | 10月17日 | 東北学院中学校 | 5 |
| 13 | 10月26日 | 多賀城市高崎中学校地域学習 | 97 |
| 14 | 11月14日 | 關上中学校 | 4 |
| 15 | 11月17日 | 歴史講座 | 20 |
| 16 | 11月23日 | 多賀城跡調査研究所 | 15 |
| 17 | 1月31日 | 史遊館ボランティアの会 | 12 |
| 18 | 2月7日 | 多賀城市立八幡小学校4年生 | 43 |
| 19 | 2月27日 | 多賀城市立八幡小学校3年生 | 47 |
| 20 | 3月13日 | 多賀城中学校1年生 | 69 |
| 21 | 3月14日 | 多賀城中学校1年生 | 71 |

(2) 常設展

①埋蔵文化財調査センター常設展示室「古代都市 多賀城」

多賀城跡の南面で実施した発掘調査により、古代の道路網による方格地割とまち並みが発見され、そこに居住した人々の生活が徐々に明らかになっている。漆紙文書や人面墨書き土器、題簽軸木簡など発掘された遺物を通して、平安時代に多賀城の城下に建設された「古代都市 多賀城」の様相を紹介している。



埋蔵文化財調査センター展示室

②埋蔵文化財調査センターエクスペリエンス（多賀城史遊館）展示室

・常設展示室1 「考古資料からみた多賀城の歴史」

多賀城市内の発掘調査で出土した考古資料を中心に、縄文時代から江戸時代まで、年代を追った通史展示を行っている。市内の歴史の概要を、児童生徒をはじめ理解しやすいように解説している。

・常設展示室2 「民俗資料からみた多賀城のくらし」

「農家の一年～昭和四十年代までの多賀城のくらし～」と題し、民俗資料展示を行っている。多賀城市内で使用されていた農具と、農家の生活に関連する資料を展示し、昭和40年代頃まで実際に多賀城市内で営まれていた農家のくらしを、一年の流れに沿って紹介している。資料に直接触れることができ、当時の暮らしの様子を体感できる。



多賀城史遊館常設展示室 1



多賀城史遊館常設展示室 2

(3) 速報展

名称：速報展「発掘された遺跡－平成29年度の調査成果－」

期間：平成30年5月26日（土）～7月29日（日）

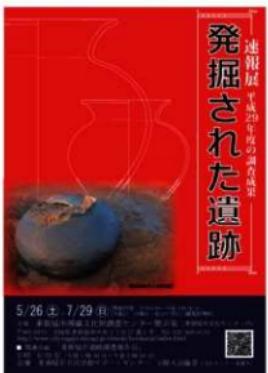
会場：埋蔵文化財調査センター企画展示室

入館者数：1,783人

①展示の趣旨

本展示は、平成29年度に本市教育委員会が実施した発掘調査の成果をいち早く紹介することで、市民をはじめ多くの方々に、埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的として開催した。

また、平成26年度に宮内地区被災市街地土地区画整理事業に伴う発掘調査で出土した木製品の保存処理が完了し、一般公開することが可能となったため、同木製品の展示も行った。さらに、過去に調査を行った大日北遺跡第1次調査で、近世墓から出土した漆器椀や鏡入れの保存処理も完了したことから併せて展示した。



速報展ポスター

②展示の構成

多賀城市教育委員会では、平成29年度に40件の発掘調査を実施した。これらの調査は東日本大震災に伴う復興事業や個人住宅・宅地造成工事等に先立ち行った。今回の展示は、その中から注目される調査成果を取り上げ、併せて宮城県教育委員会が実施した多賀城跡第91次調査についても紹介した。

多賀城跡第91次調査

多賀城南門から南にのびる南北大路の一部を調査した。大路の東側溝は複数回の改修があり、路面も拡幅されたことが分かった。多賀城廃絶後には、自然の流路により、南北大路が壊されている状況も確認された。

山王遺跡第178～179次調査

多賀城地区大区画は場整備事業に伴い、JR陸前山王駅の南側や山王小学校周辺の広範囲を調査した。平安時代のまち並みの基幹道路である東西大路や、まち並みを区画する西3～7道路をはじめ、掘立柱建物や井戸などを発見した。また、まち並みの外側に該当する地点では、畑や区画溝などの生産域を発見した。

山王遺跡第183～185・192次調査

三陸自動車道多賀城ICの南側を調査し、奈良時代の区画溝、平安時代の北1道路の他、堅穴住居、掘立柱建物などを発見した。遺物は古代の土器、刀子、砥石や、古墳時代の石製模造品が出土した。当該調査区の北東側には、近接して奈良時代の集落が広がっており、区画溝はこれに関連する施設の可能性が推測される。堅穴住居からは、9世紀末頃から10世紀はじめ頃の土器が多数出土した。

山王遺跡第187～191次調査

多賀城消防署西部出張所の南東を調査し、南北にのびる区画溝や掘立柱建物、井戸を発見した。井戸は箱の部材が井戸側として再利用された状態で出土した。

市川橋遺跡第95次調査

三陸自動車道多賀城ICの南東側を調査し、北2東西道路や西3南北道路をはじめ古代の掘立柱建物や、堅穴住居などが密集している状況を確認した。当時の高級品である施釉陶器や、役人が使用したと考えられる硯が出土した。

志引遺跡第6次調査

本市の中央部に位置する標高約20mの丘陵上を調査した。7世紀代（西暦600年代）と推定される堅穴住居を発見したことにより、本遺跡の様子を知る手がかりが得られた。

西沢遺跡第30次調査

多賀城跡作貢地区東側の谷を挟んだ丘陵上を調査した。古代の遺構は、大型掘立柱建物や堅穴住居の他、須恵器大甕を埋設した土器埋設遺構を発見した。中世の遺構では土塁や区画溝などを発見し、天目茶碗や茶臼、中国製の青磁・白磁、瓦質土器などが出土した。

③まとめ

展示全体を見ると、今回は大規模な宅地造成工事に伴う調査や、昨年度に引き続き大区画は場整備事業に伴う調査では成果が充実した。一方で、個人住宅建築に伴う発掘調査の紹介も多く、例年同様に調査面積が狭いことから発見遺構の性格が把握しづらい側面があり、いかに分かりやすく紹介するかが毎年の課題となっている。保存処理が終了した木製品では、室町時代の井戸枠の他、祭祀に使われたと考えられる舟

形や、近世墓から出土した漆器椀や鏡入れなどの紹介を行った。展示では見学者の理解の一助として、過去の調査成果より関連資料も合わせて展示した。また、コーナーごとにトピックスを設け、それぞれのテーマについてさらに掘り下げた解説を行った。



山王遺跡第178～179次調査



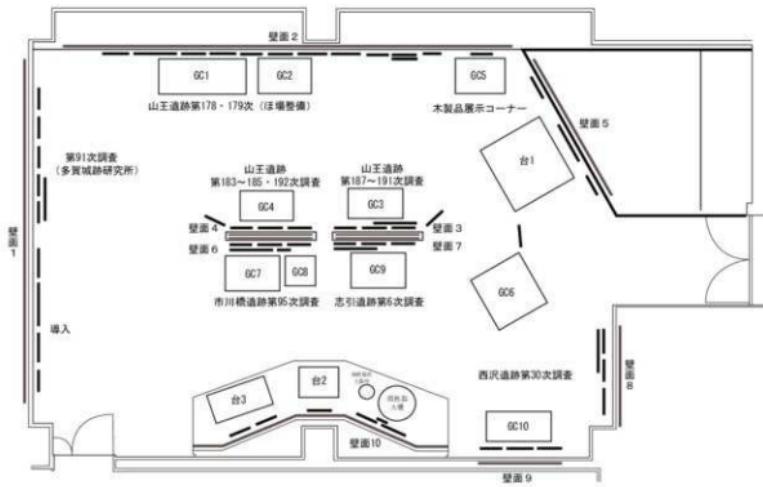
山王遺跡第187～191次調査



西沢遺跡第30次調査



保存処理が完了した木製品（大日北遺跡第1次調査）



速報展示資料一覧

| 展示場所 | 種別 | 資料名 | 展示場所 | 種別 | 資料名 | |
|-----------------------------|-------|-------------------------|----------------|---------------|-----------------|--|
| 導入 | | | | | | |
| 壁面 1 | 趣旨P | 展示趣旨 | 壁面 5 | 写真P | 八幡沖遺跡第7次調査遠景 | |
| | 図P | 平成29年度調査遺跡一覧 | | 写真P | 井戸の出土状況 | |
| | 図P | 調査区位置図 | | 文字P | 井戸枠 | |
| | 図P | 年表 | | 文字P | 保存処理の方法 | |
| 1. 多賀城跡（第91次調査）宮城県多賀城跡調査研究所 | | | GC6 | | 漆器椀・鏡入れ | |
| 壁面 1 | コーナーP | 多賀城跡 | 6. 市川橋遺跡第95次調査 | | | |
| | 写真P | 調査区遠景 | | 文字P | 市川橋遺跡 | |
| | 図P | 調査区の位置図 | | コーナーP | 市川橋遺跡第95次調査 | |
| | 図P | 平面模式図 | 壁面 6 | 図P | 調査区模式図 | |
| 2. 山王遺跡第178・179次調査 | | | | 写真P | 堅穴住居検出状況 | |
| 壁面 2 | 文字P | 多賀城地区大区画は場整備に係る発掘調査 | | 写真P | 掘立柱建物検出状況 | |
| | 図P | 調査区位置図 | | | 須恵器壺・土師器小型壺・砥石 | |
| | コーナーP | 山王遺跡第178次調査 | | | 刻印瓦・縁釉陶器・灰釉陶器 | |
| | 写真P | ①東西大路検出状況 | | | 土師器 | |
| | 写真P | ②大きな柱穴からなる掘立柱建物 | | GC8 | 円面硯・風字硯 | |
| | 写真P | ③井戸検出状況 | | 7. 志引遺跡第6次調査 | | |
| | イラストP | 平安時代のまち並みの様子 | 壁面 7 | 文字P | 志引遺跡 | |
| | コーナーP | 山王遺跡第179次調査 | | コーナーP | 志引遺跡第6次調査 | |
| | 写真P | ④小溝群 | | 写真P | 調査区全景 | |
| | 写真P | ⑤平安時代の大溝 | | 写真P | 調査の様子 | |
| GC1 | 文字P | ⑥平安時代の大溝 | | GC9 | 土師器壺 | |
| | 写真P | 木製品大皿出土状況 | 8. 西沢遺跡第30次調査 | | | |
| | | 土師器壺・土師器壺(網代底) | | 文字P | 西沢遺跡 | |
| GC2 | | 須恵器・丸瓶・須恵器高壺 | 壁面 8 | コーナーP | 西沢遺跡第30次調査 | |
| | | 墨書き土器「淨」・墨書き土器「長」 | | 写真P | 調査区遠景 | |
| | | 土器・須恵器系土器壺・風字硯 | | 図P | 古代・中世の遭構模式図 | |
| 3. 山王遺跡第187～191次調査 | | | | 写真P | 調査区南側全景 | |
| 壁面 3 | 文字P | 山王遺跡 | 壁面 9 | 写真P | 古代の掘立柱建物 | |
| | コーナーP | 山王遺跡第187～191次調査 | | 写真P | 古代の堅穴住居 | |
| | 図P | 山王遺跡第187～191次調査と周辺の調査成果 | | | 須恵器壺・須恵器稜壺・須恵器蓋 | |
| | 写真P | 井戸検出状況 | | | 灰釉陶器双耳瓶蓋・須恵器蓋 | |
| GC3 | 写真P | 南北区画溝調査状況 | | | 須恵器長頸瓶 | |
| | | 土師器壺 | GC10 | | | |
| 4. 山王遺跡第183～185・192次調査 | | | | 写真P | 大甕が埋設された状況 | |
| 壁面 4 | コーナーP | 山王遺跡第183～185・192次調査 | 写真P | 大甕の内部から出土した土器 | | |
| | 写真P | 北1道路と堅穴住居 | 図P | 大甕が埋設された状況 | | |
| | 写真P | 奈良時代の区画溝 | 壁面10 | | | |
| GC4 | | 須恵器系土器壺・砥石・刀子 | 写真P | 須恵器大甕・須恵器系土器壺 | | |
| | | 土師器壺・土師器壺・土師器壺 | 台2 | 土壙から出土した土師器 | | |
| | | 石製模造品・土師器壺 | 写真P | 土器 | | |
| 5. 木製品展示コーナー | | | 壁面10 | 写真P | 中世の溝(東西方向) | |
| 壁面 2 | コーナーP | 木製品保存処理 | | 写真P | 中世の溝の断面 | |
| | GC5 | 舟形・漆器椀 | | 図P | 酒飯論絵巻 | |
| | | | | | 茶臼・天目茶碗・青花碗・青磁碗 | |
| | | | | | 白磁碗・施釉陶器平塊 | |
| | | | | | 無釉陶器摺鉢・瓦質土器摺鉢 | |

(4) 企画展

名称：第29回企画展 古代の多賀城と国司館

期間：平成30年10月6日（土）～同年12月24日（日）

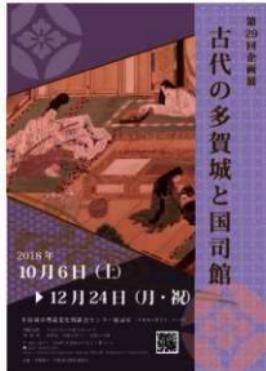
場所：埋蔵文化財調査センター3階展示室

入館者数：2,113人

①展示の趣旨

山王遺跡千刈田地区で発見した古代の邸宅跡は、主殿の格と規模、出土文字資料の検討から、10世紀前葉の陸奥守の官舎である「国守館」と推測された。「国守館」の発見は、全国で初めてのことであり、敷地の規模や立地、国守との位置関係を明らかにした点で、古代史上貴重な成果を提示するものとなった。

今回の展示は、「国守館」の調査成果を中心に、古代の多賀城とその周辺で発見された国司館について紹介し、改めて国府が置かれた多賀城との関係を考えるものである。



企画展ポスター

②展示の構成

導入

- 律令国家の地方支配

平安時代の日本は66の国に分けられ、各国の国府には中央から長官以下数名の国司が派遣された。国司は地方における天皇の代理人として国政を担い、その官舎として設けられたのが国司館である。応天門の変を題材とした伴大納言絵詞（複製品）を展示し、律令国家転換期の時代背景についての導入とした。

- 地方政治の変化

都城の朝堂院を模した地方の国府は、政府を中心とする役所

群で構成されており、平安時代の中ごろにそれらが廃れると、代わって国司館が政務の場となった。国司の職務とともに国郡里制を模式的に図解し、古代の地方支配構造の基本的な理解促進を図った。

コーナー1 陸奥国と国司

古代陸奥国の国府は、8世紀前葉以降、城柵「多賀城」に置かれた。陸奥国司は日本国内で最も多くの郡を管轄するとともに、対蝦夷政策の拠点として設置された城柵の管理など、他の国司にはない任務があった。

まず国司の存在を推測させる特殊な出土遺物を展示し、多賀城周辺が一般集落から隔絶した異質な空間であったことを強調した。

次に、任国へ赴任する国司について、文学作品を通じてその



展示室受付案内パネル



灰釉・緑釉陶器

動きを紹介した。コーナー2以降国司の館へと焦点を当てる前提として、国司の生活に関するイメージを得ることを企図した。

・出土資料に見る陸奥国司

多賀城市内で出土した資料から、城外の館で生活した上級役人の存在が想定されるものを抽出・展示した。越州窯系青磁・長沙窯系黄釉褐彩水注・邢窯系白磁といった初期貿易陶磁や、東海系・畿内系緑釉陶器、灰釉陶器などの国産施釉陶器類、役人が身に着けた腰帶具、文書作成に用いられた硯等を展示了。これらの遺物は堅穴住居を主体とする古代の一般集落から出土することはほとんどなく、国司等の上級役人の存在を示す貴重な物質資料である。中国における窯跡の分布をマッピングし、多賀城市内で出土した資料が多様な生産地からもたらされている状況を視覚化した。古代東アジアの中での多賀城を位置付けることを意図したが、十分な効果を果たさなかった。遠隔地交流の視覚化という意味では、国産施釉陶器も含めた広域地図の作成も効果的と考える。

・文学作品に見る国司

紀貫之の『土佐日記』や平時範の『時範記』には、任期を終え赴任先の館から帰京する行程や、都から国府へ至る行程が記されている。また、「因幡堂薬師縁起絵巻」には、家族や使用人を伴って任国に向かう橋行平ら国司一行の様子が描かれている。後者は鎌倉時代末期に描かれた絵画資料であるが、10世紀後半に因幡國府へ至る受領国司の姿であり、本展示の主題である千刈田地区の国守館で暮らした国司一行のイメージを掴む効果が期待できる。これらの資料に見える国司の旅程をパネル化して展示了。



因幡堂薬師縁起絵巻

コーナー2. 陸奥国の国司館

多賀城が創建されると、その城外にはそれと密接に関わる集落が形成された。やがて平安時代になると多賀城南面に方格地割が施行され、そのまち並の中に、国司館が設けられた。奈良時代の国司館は未発見であるが、山王遺跡八幡地区には8世紀代の大規模な区画溝と、それに区画される居住城が広がっており、発掘調査によって多賀城周辺で発見された国司館や、国司館の可能性が高い施設を紹介した。

・奈良時代の国司館

多賀城の南西に位置する山王遺跡八幡地区では、上級役人の冠帽や、宴會等で使用した土器類が多数見つかっており、付近に国司館が所在した可能性がある。漆紗冠や高盤を展示したほか、区画溝と建物の分布をパネルにし、「百濟王敬福」漆紙文書出土位置等をプロットした。

・まち並みの整備

9世紀前葉頃になると、多賀城南面一帯におよそ一町四方の方格地割が施行された。上級官人である国司館は、幹線道路である東西大路に面した区画に営まれた。多賀前地区の国司館成立の前提として方格地割の成立に触れる。

・倉が立ち並ぶ館

多賀前地区北側の館では、三面に廂のつく主屋と、それを囲むように小規模な倉庫群が配置されていた。出掌経営の稻を納めたものと考えられる。

・庭園のある館

多賀前地区南側の館では、中央に造り水を配した庭園が発見されている。「宮城」「亘理」「加美」などの郡名墨書き土器が発見されており、郡司らを招いた宴会が行われていたと考えられる。同区画内で使用後に一括で埋納された9世紀後半頃の土器を展示了。

・運河に面した館

東西大路沿いから一つ離れた区画で、四面廂付建物を主殿として、小規模な副屋や井戸を規則的に配置した10世紀中頃の施設を発見している。西向きの展開であり、運河を正面にした施設と考えられる。区画内から出土した越州窯系青磁香炉や10世紀中頃の土器を展示了。

・館の建築部材

花粉分析や付近の遺跡から出土した自然木の分析によって、当時の植生が復元されている。運搬容易な小型の製品類には遠隔地の木材が用いられた一方で、建物部材には現地で入手可能なクリやケヤキが用いられた。製品と部材の樹種を円グラフ化しパネルを作成した。城南地区出土木製品や建築部材を展示了。

コーナー3. 国守館

山王遺跡千刈田地区で発見した邸宅は、10世紀前葉頃における「国守」の館であることが明らかになった。多賀城政府の維持・管理が徹底されなくなるこの時期、陸奥守は館を政務の場としていた。

・国守館成立以前

国守館が営まれる以前、北1西7区付近は小規模な建物が立つ場所であった。漆紙文書や漆付着土器が出土しており、付近に漆工房が存在した可能性がある。国守館の前史として、9世紀代の遺物を展示了。

・国守館の変遷

国守館の主殿は、10世紀前半の中で4時期の変遷を確認している。そのうち2時期目の段階で、十和田湖を噴源とする灰白色火山灰が降下している(915年)。2時期目の建物は火災で焼失したことが判明している。後述の題籠軸木簡は、1時期目～2時期目の段階の館で用いられたものと考えられるが、灰白色火山灰との関係は厳密には不明であり、国守と右大臣がやり取りした年代は915年以前に限定できない。

・館の井戸

主殿の南西約10mの地点には、大型の井戸が設けられてた。井戸側はヒノキの削り抜き材を組み合わせた格の高いもので、廃棄する際には井戸終いの祭祀が行われていた。抜き取り穴には灰白色火山灰が自然堆積しており、3時期目以降の主殿とは併存しなかったとみられる。

・国守館の周辺

国守館の区画は、東西大路沿いに面した一等地に置かれ、その西隣の区画でも、上級役人の邸宅の一部が見つかっている。また、東西大路を挟んだ南側の区画では、四面廂付と見られる建物を確認しており、付近の調査においても、上級役人が生活した痕跡



漆が付着した土器



館の井戸

が見つかっている。東西大路を挟んで南側の区画では、廂付建物とみられる柱列が確認されている。

・贅沢な食器

千刈田地区で出土した食器類には、国産の釉をかけた陶器や、中国の青磁や白磁が用いられた。これらの陶磁器類は大変貴重なもので、国守の財力を示している。青磁水注は後述する 10 世紀前半の土器埋納遺構から出土しており、時期の確実な貴重な資料である。

・埋納された土器

主殿の南西部に接して 265 点以上の土器の食器と青磁の水注等が埋納されていた。主殿で行われた饗宴儀礼等に用いられたと考えられる。

コーナー 4. 国守館の発見の意義

10 世紀以降、中央における律令体制の変質は地方にも波及し、国府に対して国司館の役割が重要性を増すと言われてきた。「国守館」の発見は、このような文献史学からの指摘を考古学的に見事に証明したものと評価することができる。国守館であることを決定づけた「右大臣殿鏡馬収文」題簽軸木簡の実物及び復元模型を展示し、使用方法とその意義についてキャプションを用いて説明を行った。



青磁 水注



コーナー 4 展示状況

③課題

企画展では、律令制度と国郡里制の概要から始まり、上級役人の携行品の展示を通じて国司のイメージを膨らませ、国司館、国守館へと焦点を絞っていく構成をとった。

課題として、いずれの資料も年代的な峻別・検討が不十分であり、総体的なデータと新たな知見の提示には至らなかった点が挙げられる。例えばコーナー 1 では多賀城周辺から出土した重要資料を提示したが、年代は「奈良時代」「平安時代」といった大まかな区分であり、地区ごとの出土量や生産地の検討によって国司の生活文化に迫ることはできていない。

また、提示した資料の多くが当センターのものでありながら、参考とした研究成果の多くが当センターによるものではないことから、多賀城市における地域的な特色を提示出来ず、「縄軸陶器」あるいは「陶硯」といったものの全国的・概略的な説明と市内出土資料の羅列となってしまった。

さらに、8 世紀から 11 世紀までの国司をひとくくりにして取り扱っているものの、実際にはその性格は時代によってかなり異なっている。国守館の時代は受領制への転換期であり、国内支配の方法が大きく変質している。国衙機構の再編は付随する多賀城外における都市空間の構造にも影響を及ぼしたものと考えられるが、同時代における周囲の遺物・遺構の検討が不十分であり、コーナー 2 やコーナー 3 についても調査事例の羅列となってしまった。道路跡及び区画内の地点ごとの有機的な繋がりを把握することが求められる。



企画展展示会場レイアウト

企画展展示資料一覧

| 展示場所 | 種別 | 資料名 | 展示場所 | 種別 | 資料名 |
|------------|--------------------------|--|--------------|--------------------------|---|
| 壁面1 GC1 | 解説P 解説P 解説P 解説P | 展示の趣旨 導入 年表 律令国家と地方支配の構造 古代の陪奥国と大國における守の職業 作大納言宿同(複製) | 壁面7 GC8 | 参考 標 葉状木製品 建築部材 | |
| 壁面2 GC2 | 解説P 解説P | 医方書簡と裏升 (裏升)墨書き跡 | 壁面8 GC9 | 解説P | 運転に面した館 倉のある館 青磁水印 井戸跡出土土器 |
| 壁面3 GC3 | 解説P 解説P 解説P 解説P | 出土資料に見る陸奥国 上級官人の携行品 施釉陶器・貿易陶磁器 絵釉瓦・陶器碗 (宮城県・多賀城跡五万町地区) 絵釉瓦・瓦・陶器碗 (宮城県・市川橋遺跡) 灰釉陶器把手付瓶(高橋10次) 灰釉陶器 (市川橋遺跡城南地区) 白磁(山王10次) 黄釉肥彩水注 (市川橋遺跡城南地区) | 壁面9 GC10 | 解説P | 多賀城成立以前 青磁土器 (山王9次、68次) 墨書き器(山王9次) |
| GC4 | 解説P 解説P 解説P 解説P | 円面鏡(山王10次) 円面鏡(高崎遺跡) 風字鏡(市川橋遺跡城南地区) 風字鏡(山王12次) | 壁面10 GC11 | 解説P | 国守館の愛遷 千利休地区出土陶器形態 (現物資料) |
| 壁面4 GC5 | 解説P 解説P 解説P 解説P | 鏡 石斧・鏡 文学作品にみる国司 因幡堂裏御縁起絵巻 | 壁面11 GC12 | 解説P | 国守館の戸戸 幅×2(山王9次) 下駄(山王9次) 須恵器瓶(山王9次) |
| 壁面5 GC6 | 解説P 解説P | 石斧 八花瓶 瑞花・反八瓣輪 庭園のある館 SKS20出土土器 墨書き土器 | 壁面12 GC13 | 解説P | 水滴 人形(山王9次) 蒼(山王9次) |
| 壁面6 GC7 | 解説P 解説P | 奈良時代の国司館 SD180出土土器高瓶 SD180出土須恵器高瓶 唐砂冠 | 台1 壁面13 | 台2 | 曲輪(山王6次) 折敷(山王6次) 灰釉陶器(山王6次) 疊桶・足盤(山王9次) |
| 壁面7 GC8 | 解説P 解説P | 館の建築部材 曲げ物 | 壁面14 台3 | 台2 | 青磁水注(山王9次) 金瓶の村にした灰釉陶器 円面鏡・風字鏡 |
| | | | 壁面15 台3 | 台3 | 解説P 町守館見の意義 「右大臣殿銅鏡馬收文」 箋蒙物木簡 |
| | | | 壁面16 | | |
| | | | GC14 | | |

(5) 資料展1 「天童家三代 頼澄・重頼・頼長の時代」

期 間：平成30年8月16日（木）～9月24日（月）

場 所：埋蔵文化財調査センター3階展示室

入館者数：957人

①展示の趣旨

宮城郡八幡村の領主であった天童氏は、かつて出羽国天童城主であったが、頼澄の代に最上氏との戦いに敗れ、のち伊達政宗の家臣となって仙台藩準一家に列せられ、幕末までこの地を治めた。

仙台藩の重臣、準一家の家格を与えられた天童氏であったが、初代頼澄から3代頼長までは嫡子がなく、養子により継承することで家の存続を図り、家格に相応しい役目を遂行し続けることができた。本展示では、天童家の基礎が築かれる重要な時期、約30年間に亘って養子により継承するという不安定な期間をいかに乗り越えてきたか、残された資料から天童家初期のあゆみについて紹介した。

②展示の構成

導入

天童家を象徴する2件の資料を展示了。「源姓最上天童氏系図」は装飾性にも優れており、天童家にとつて最も重要な系図と考えられる。第56代清和天皇から始まり、天童氏が足利氏、斯波氏に連なる由緒正しい清和源氏の家であることが示されている。また、天童家が所蔵する南北朝時代から室町時代のものとされる脇差は、無銘であるが、備前の刀工の作と考えられている。目釘穴が複数あるため、数回にわたって刀身を短くしたことがわかる。

天童頼澄の時代

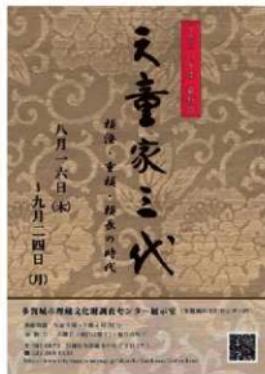
仙台藩における天童家初代頼澄は、最上義光に居城である天童城を攻め落とされ、陸奥国宮城郡の国分氏のもとに身を寄せる。後に伊達政宗に仕え、今まで続く天童家の礎を築いたのが頼澄である。僅かに残る頼澄関連資料のうち、今回は、頼澄自筆書状写しとその包み紙を展示了。内容的には不明な点が多いが、家臣の草刈家に伝わっていた頼澄書状を天童家で書き写し、その結果同家に残されたと考えられている。

重頼の時代

初代の頼澄には嫡男がいなかったため、藩の一門水沢伊達家初代宗利の弟重頼を養子に迎えた。生家である水沢伊達家は本姓が留守氏で、中世に多賀国府の留守職として国政を担った由緒ある家柄である。水沢伊達家の系図や同家ゆかりの増長寺過去帳に重頼の名が記されている。中でも兄である宗利の事績を記した項に、重頼に関する記載がしばしば見られることは特筆すべきことである。

頼長の時代

重頼の死後、涌谷伊達家の二男宗重が天童家の跡を継ぎ、頼長と称した。頼長が築造または改修したとされる加瀬沼などの治水事業や、塗屋の見龍院を紹介、また頼長の本姓亘理氏の「亘理家系



資料展「天童家三代」ポスター



19

図」や仙台藩二代藩主忠宗から天童家三代頼長に宛てた書状などを展示した。伊達宗重宛の書状は多いが、頼長宛のものは極めて少なく、貴重な資料である。

家名を守る

天童家にとって、仙台藩準一家としての役割を果たす上で重要であったのは、清和源氏の流れをくむという家の由緒であった。同家に残るさまざまな系図はそれを証明するものであり、さらに中世から続く家を継承し続けることが天童家の使命でもあった。

ここでは、家格保持のための系図や、家名存続のために迎え入れた義女・義子の生家にかかる系図などを紹介した。

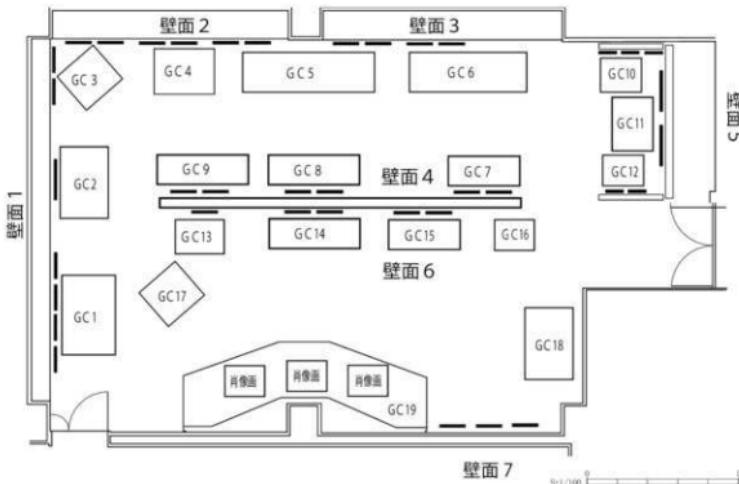
肖像画の系譜

天童家の菩提寺である宝国寺には、天童家2代重頼とその家臣と考えられる4人の人物を描いた肖像画が残されている。その構図は奥州市大安寺所蔵の「留守政景肖像画」及び「伊達宗利肖像画」と酷似しており、強い関連性が伺われる。今回、初めて3幅の肖像画が一堂に会したこと、改めて相互の関係性を再確認することができた。

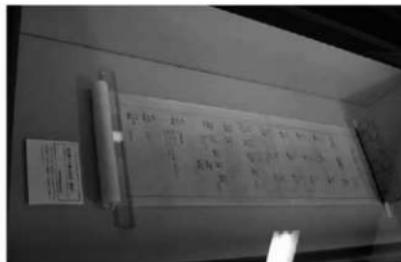
③まとめ

養子を迎えることで家の存続を図り、家格に相応しい役目を遂行し続けてきた天童家。その困難をいかにして乗り越えてきたかに焦点を当てて展示を開催した。

アンケートからは、天童家の家名を守り抜くことがいかに大変であったかが分かったという意見が多く寄せられ、好評を得た。一方で展示順路の不明瞭や掲示物の必要性、開催期間の調整など、展示の内容以外での改善すべき意見もあがった。



資料展「天童家三代」展示会場レイアウト



ガラスケース 2



展示状況



展示状況



ガラスケース 19

資料展「天童家三代」展示資料一覧

| コーナー | 資料名 | 数量 | 年代 | 所蔵 |
|------|-----------------------|------------------------------|------------------|------------------------|
| 1 | 駕差 | 1 | 南北朝～室町時代 | 天童勘氏 |
| 2 | 導入 | ○源姓最上天童氏系図 ○源姓最上天童氏系図(複製) | 1 1 | 多賀城市教育委員会 多賀城市教育委員会 |
| 3 | 斯波頼久系図 | 1 | 江戸時代 | 天童市立旧村山郡役所資料館 |
| 4 | 天童古城出土陶磁器 | 13 | 13世紀～16世紀 | 天童市教育委員会 |
| 5 | 高野坊遺跡出土墨書牒 | 39 | 14世紀初頭 | 天童市教育委員会 |
| 6 | ○貞山様御自筆御書之写 | 1 | (天正16年＝1588) | 多賀城市教育委員会 |
| 7 | ○(頼澄自筆書状) | 1 | 16世紀末～17世紀初 | 多賀城市教育委員会 |
| 8 | ○(頼澄自筆書状の包み紙) | 1 | 16世紀末～17世紀初 | 多賀城市教育委員会 |
| 9 | ○天童氏過去帳 | 1 | | 多賀城市教育委員会 |
| 10 | 天童重頼の時代 | | | 奥州市 |
| 11 | 御統書 | 1 | | 多賀城市教育委員会 |
| 12 | (留守氏(水沢伊達氏)系図) | 1 | 18世紀前葉以降 | 多賀城市教育委員会 |
| 13 | ○伊達安芸より天童帶刀宛書状 | 1 | 1671年(寛文11年)以前 | 多賀城市教育委員会 |
| 14 | ○(自理家(涌谷伊達氏)系図) | 1 | 18世紀前葉以降 | 多賀城市教育委員会 |
| 15 | 青磁香炉 | 1 | 17世紀中葉 | 個人 |
| 16 | 曲物 | 1 | 寛文13年(1673) | 個人 |
| 17 | 伊達忠宗より天童甲斐あて書状 | 1 | 寛永13年(1636)以降 | 東北歴史博物館 |
| 18 | ○(系図紹介状) | 1 | 17世紀中葉か | 多賀城市教育委員会 |
| 19 | ○頼久甲斐長16年死去已後天童相続之者 | 1 | 17世紀中葉か | 多賀城市教育委員会 |
| 20 | ○(先祖につき紹介状) | 1 | 17世紀中～後葉か | 多賀城市教育委員会 |
| 21 | ○(諸家系図) | 1 | 17世紀未頃か | 多賀城市教育委員会 |
| 22 | ○源姓天童系図 | 1 | 17世紀未頃 | 多賀城市教育委員会 |
| 23 | ○伊達政宗より桑折治部大輔宗長宛書状 | 1 | 天正19年(1591) | 多賀城市教育委員会 |
| 24 | ○伊達政宗より桑折隱居桑折政長後家カ宛消息 | 1 | 元和元年間(1615～1623) | 多賀城市教育委員会 |
| 25 | 留守政景肖像画 | 1 | 慶長15年(1610) | 大安寺 |
| 26 | 伊達宗利肖像画 | 1 | 文政2年(1819) | 大安寺 |
| 27 | 天童重頼肖像画 | 1 | 寛永2年(1625)以降 | 宝国寺 |

○印=多賀城市指定文化財

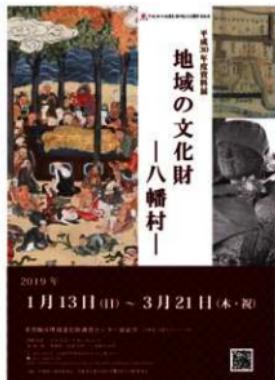
(6) 資料展 2 「地域の文化財 一八幡村一」

期間：平成 31 年 1 月 13 日（日）～同年 3 月 21 日（木）

場所：埋蔵文化財調査センター 2 階展示室 入館者数：1,600 人

①展示の趣旨

本市では平成 25 年度から市内全城を対象とした文化財調査を行っている（第 1 章第 3 節参照）。この調査は、江戸時代多賀城市にあった 13 の村ごとに実施しており、これまで資料化していなかった石造物、棟札や絵馬、人々の信仰にまつわる行事や講、社会組織など、地域の歴史を伝える多くの文化財を確認できた。そこで平成 30 年度から、地域の特色ある歴史を文化財調査の成果をもとに旧村単位で紹介することとし、初年度にあたる本展示では、最初に調査を行った旧八幡村を取り上げ、地域に残る多くの資料から八幡村とそこに暮らす人々の歴史を紹介した。



資料展「地域の文化財」ポスター

②展示の構成

地図と写真にみる地域の変化

八幡地区は市内中心部に位置し、著しく市街地化が進んだ地域の一つである。コーナー 1 では、絵図や古地図、航空写真から、農地が住宅地から商業地へ、多賀城海軍工廠跡地から工場地帯への変化など、地域の移り変わりを紹介した。

多賀城海軍工廠と沖区

海軍工廠とは海軍直属の軍需工場で、昭和 18 年、本市に東北・北海道で唯一の多賀城海軍工廠が開庁した。八幡の南東部にあった沖区には、航空機統を製造する機統部が置かれることとなり、その建設にあたって、用地内の家屋や墓地まで移動させる大規模な集団移転が行われた。

コーナー 2 では、移転前の沖区の姿や集団移転、移転後の人々のつながりや信仰について、海軍工廠建設と集団移転、八幡沖地区の契約講、ゴマダサマ（護摩壇様）、萩原神社、沖地蔵、御釈迦講の 6 つの小テーマを設けて紹介した。

村のいしづえ

八幡村は、鎌倉時代のはじめ、多賀国府の次官「陸奥介」が八幡庄の地頭に任命され、開発が進んだところである。その子孫とも推定される八幡氏は代々「八幡介」と称して村を支配した。江戸時代には仙台藩の重臣天童氏が治め、その在郷屋敷や家中が暮らす町場があった。八幡村の歴史には、武士が大きく関わっており、この地域の特色の一つとなっている。

コーナー 3 では、中世の領主一八幡氏一、八幡のまち並み、八幡の契約講、喜太郎稻荷神社の 4 つの小テーマを設け、かつてこの地域を治めた武士との関連性から、現在の八幡のまち並みや人々の暮らしの基盤となっている社会組織を紹介した。

人々と信仰

八幡には、現在も存続するものやすでに廃れてしまったものまで、数多くの寺社仏閣が存在する。それ

らへの人々の信仰の歴史は、現在も続く行事や講だけではなく、地域に残る供養塔など様々な資料から知ることができる。コーナー4では、鎮守鷦鷯音と桜木觀音、宝國寺と不磷寺、八幡神社と般若寺、供養塔にみる講、遠方の神々への信仰の5つの小テーマを設け、八幡の寺社仏閣、そこにおける人々の信仰の様子を紹介した。

③まとめ

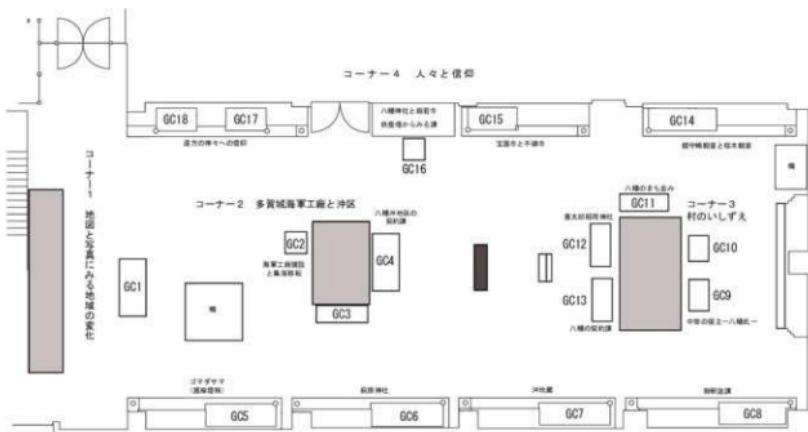
本展示では、身近であるために見過ごしてしまいがちな地域の歴史、現在の暮らしに焦点を当て、地域で守り伝えられてきた資料を多く展示した。

来館者とのやり取りから、八幡地域の住民、またこの地域に縁のある人が多く訪れたことが確認できており、自身が暮らす身近な地域の歴史を再確認したり、新たな発見が得られる機会となったと考えられる。

ポスター・チラシを見て来館した人のほかに、展示を見た住民からの情報を聞き、家族や親戚で来館した人も多くみられたことから、本テーマへの関心の高さがうかがえる。アンケートの満足度に関する項目もすべてが「満足」「やや満足」との回答であり、このような展示内容が望まれていることもわかった。

また、多くの資料は地域住民によって保管されているものであり、これらの資料も地域の歴史を伝える貴重な文化財であることを印象づけるとともに、今後の資料の保管・継承に少なからず良い影響を与えることが期待される。

学校教育との関連では、期間中八幡地域に学区を持つ八幡小学校（3・4学年）、多賀城中学校（1学年）が学習の一環として展示の見学に訪れた。次世代への継承という側面からも、自分がその担い手であることを理解する一つのきっかけになることが期待される。





展示状況



ガラスケース 8

資料展「地域の文化財－八幡村－」展示資料一覧

| コーナー | 小テーマ | 番号 | 資料名 | 年代 | 点数 | 所蔵者 |
|---------------|-----------------|----|--------------------------|------|-----------|-----------|
| 地図と写真にみる地域の変化 | | 1 | 八幡村絵図 | 明治9 | 1 | 多賀城市教育委員会 |
| 海軍工廠建設と集落移転 | | 2 | 移転概略記録 | 昭和19 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 3 | 八幡沖遭難出土陶磁器 | 39 | 多賀城市教育委員会 | |
| | | 4 | 中谷地契約會加入人名簿 | 昭和13 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 5 | 中谷地契約會留念帳 | 昭和19 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 6 | 民主宮内契約会 | 昭和21 | 1 | 宮内契約会 |
| | | 7 | 原規約臺帳 | 昭和23 | 1 | 原規約会 |
| | | 8 | 契約人名及宿前 | 明治36 | 1 | 原規約会 |
| | | 9 | 「奉納大型不動明王」機 | 安政6 | 2 | 大場七郎氏 |
| | | 10 | 「奉納大型不動明王」機 | 慶應1 | 1 | 大場七郎氏 |
| | ゴマダサマ (護摩焼塗) | 11 | 「奉納大型不動明王」機 | 明治15 | 1 | 大場七郎氏 |
| | | 12 | 「奉納大型不動明王」機 | 昭和3 | 1 | 大場七郎氏 |
| | | 13 | 「奉納大型不動明王」機 | 昭和11 | 1 | 大場七郎氏 |
| | | 14 | 大型不動明王祭典定例 | 昭和7 | 1 | 大場七郎氏 |
| | | 15 | 鈴 | 明治28 | 1 | 大場七郎氏 |
| 多賀城海軍工廠と沖区 | | 16 | 掛軸 | 明治31 | 1 | 宮内地藏譜 |
| | | 17 | 掛軸 | | 1 | 宮内地藏譜 |
| | 仲地蔵 | 18 | 宮内区念佛説 | 昭和27 | 1 | 宮内地藏譜 |
| | | 19 | 「奉納南無地藏大菩薩」機 | 昭和57 | 1 | 宮内地藏譜 |
| | | 20 | 寄進札 | 宝曆5 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 21 | 寄進札 | 文政10 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 22 | 掛札 | 元禄1 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 23 | 掛札 | 元文2 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 24 | 掛札 | 文政11 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 25 | 掛札 | 明治7 | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 26 | 呪符 | | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 27 | 涅槃図 | 安政2 | 1 | 西園寺 |
| | | 28 | 木箱 | 安政2 | 1 | 西園寺 |
| | | 29 | お枳溝施意書 | 昭和58 | 1 | 田口俊男氏 |
| | | 30 | お枳溝記録簿 | 昭和58 | 1 | 田口俊男氏 |
| | | 31 | 江口氏系図 | 天正18 | 1 | 江口雄一氏 |
| | | 32 | 八幡館跡出土陶磁器 | | 17 | 多賀城市教育委員会 |
| 村のいしづえ | | 33 | 宮城郡八幡邑天童氏屋敷ならびに家中・足輕屋敷絵図 | 文政7 | 1 | 多賀城市教育委員会 |
| | 八幡のまち並み | 34 | 清和契約會規約 | 昭和12 | 1 | 多賀城市教育委員会 |
| | | 35 | 死去者冒大願番帳 | 大正2 | 1 | 多賀城市教育委員会 |
| | | 36 | 契約御宿帳 | 昭和23 | 1 | 多賀城市教育委員会 |
| | | 37 | 勅諭札 | 宝曆9 | 1 | 天童斉氏 |
| | | 38 | 喜太郎福荷大明神之社歴 | | 1 | 多賀城市教育委員会 |
| | | 39 | 扁額 | | 1 | 不碼寺 |
| | | 40 | 「吉良嶋親世音菩薩」機 | 平成13 | 1 | 不碼寺 |
| | 鎮守権觀音と 桜木觀音 | 41 | 提灯 | 昭和48 | 2 | 不碼寺 |
| | | 42 | 懸仏 | | 1 | 宝国寺 |
| | | 43 | 大数珠 | | 1 | 宝国寺 |
| | | 44 | 大数珠 | 弘化2 | 1 | 不碼寺 |
| | | 45 | 懸書板 | 延享4 | 1 | 不碼寺 |
| | | 46 | 掛札 | 安政4 | 1 | 不碼寺 |
| | | 47 | 古峯神社神籠石 | | 1 | 中谷地契約会 |
| | | 48 | 古峯講名簿 | 昭和32 | 1 | 原規約会 |
| | | 49 | 古峯神社講宿帳 | 大正15 | 1 | 八幡上町講 |
| | | 50 | 古峯神社講中代參薄 | 明治41 | 1 | 八幡上町講 |
| | | 51 | 「古峯神社」掛軸 | 大正9 | 1 | 八幡上町講 |
| | | 52 | 神符 | | 1 | 八幡上町講 |
| | | 53 | 木箱蓋 | 大正9 | 1 | 八幡上町講 |

(7) 天童氏系図複製記念パネル展

期間：平成 30 年 6 月 18 日（月）～6 月 29 日（金）

会場：多賀城市役所 1 階エントランスホール

内容：「源姓最上天童氏系図」は、本市八幡の天童家に代々伝えられた系図で、平成 23 年に市が寄贈を受け、平成 29 年に市指定文化財に指定した。一方、富士ゼロックス株式会社では文化伝承活動として自社の技術を駆使し、閲覧が困難な資料や劣化が懸念される古文書等の複製・復元し、所蔵者に無償で提供している。こうした事業を通して市民が地域文化に触れる機会を創設し、活用されることによって、かけがえのない貴重な資料を後世に伝えることを目的としており、この事業の一環として「源姓最上天童氏系図」の複製、市への寄贈がなされた。

市では、事業の趣旨に鑑み、いち早く公開・活用する必要から、多くの市民が訪れる市役所 1 階エントラントスホールにおいて展示し、完成度の高さや、地域の歴史文化に対する認識を高めてもらうことを目的に展示を実施したものである。



展示状況



系図複製品展示状況



「源姓最上天童氏系図」複製品



「源姓最上天童氏系図」複製品

3 普及啓発活動

(1) 普及啓発活動概要

本所主催事業としては、連報展の関連企画として平成29年度の発掘調査成果を紹介した遺跡調査報告会、企画展のテーマである国司館をテーマとした歴史講座を開催した。史遊館を主体とした歴史体験学習事業として、また玉づくりなどの通常体験のほか、本市に関連する歴史の紹介も兼ねた歴史体験学習イベントも開催した。特に史遊館の通常体験は、市内の小中学校や近隣自治体の小学校への積極的なPRにより、家族連れの来館者や学校現場で取りあげられる機会が増加した。

また依頼対応事業としては、二市三町連携行事「春日バーミングまつり」「親子でチャレンジ 繩文土器づくり」に加え、多賀城市立図書館での「図書館講座」、仙台市民文化事業団との「雅コレクション」、三陸沿岸の自治体との「みちのく潮風トレイル」等、他機関と連携を図った館外での活動が盛況であった。

そのほか、地元の歴史を紹介する講演会への依頼協力や、宮城県考古学会や古代城柵官衙遺跡検討会からの依頼により、発掘調査成果を報告した。

平成30年度の主な普及啓発活動

| | | |
|-------------------|---------------------------|----|
| 5月29日 | 小学生多賀城跡現地学習 | 依頼 |
| 6月9日 | 網代編みコースターづくり | 主催 |
| 6月14日 | 多賀城の歴史 (出前講座) | 依頼 |
| 6月16, 17, 23, 30日 | あやめまつり (まが玉づくり) | 依頼 |
| 7月1日 | 親子でチャレンジ 縄文土器づくり(成形) | 依頼 |
| 7月6日 | 多賀城の歴史(出前講座) | 依頼 |
| 7月28日 | 春日バーミングまつり (歴史体験) | 依頼 |
| 7月29日 | 縄文の土笛づくり | 主催 |
| 8月7日 | 図書館講座 (網代編みコースターづくり) | 依頼 |
| 9月8日 | 編布づくり | 主催 |
| 10月7日 | 万葉まつり (まが玉づくり) | 依頼 |
| 11月1, 2, 3, 4日 | 文化財保護週間 (まが玉づくり無料体験) | 依頼 |
| 11月17日 | 大人のための紫染め | 主催 |
| 12月9日 | 文化センターこどもまつり (まが玉づくり) | 依頼 |
| 12月23日 | お正月の準備 (親子で作る鏡餅) | 主催 |
| 2月2日 | 図書館講座 | 依頼 |
| 2月10, 11日 | 雅コレクション (貝合わせ体験、横笛づくり) | 依頼 |
| 2月15日 | みちのく潮風トレイル | 依頼 |
| 2月23日 | 大人のための貝殻づくり | 主催 |
| 3月3日 | 文化センターまつり (まが玉づくり) | 依頼 |



小学校での出前授業



小学校の多賀城跡現地学習



図書館講座（網代編み体験）



雅コレクションへの出展

(2) 歴史学習

史遊館を主体とした歴史学習事業については、通常体験としてまたが玉づくり、縄文カゴづくり、貝絵付け、横笛づくり、らでんマグネットづくり、火おこし体験、拓本体験、貝合わせ、かるた、ぬりえを実施した。また、歴史体験イベントとして、網代編みコースターづくり、縄文土笛づくり、編布づくり、紫草染め体験、鏡餅づくり体験、貝殻づくりを開催した。そのほか、小中学校からの要望に応じて、出前講座等も随時対応した。

平成30年度から、江戸時代に多賀城市域で最大の知行地を持っていた天童家が所有していた螺鈿細工の櫛をモデルにした、らでんマグネットづくりを新たな通常体験の一つとして開始した。また今年度は、通常体験の内容と価格の見直しを図り、またが玉作りの値段を、子供が利用しやすい価格に減額した。

平成30年度の史遊館利用者数は総数5,527名であり、1日あたりの平均人數は約18名であった。特に団体による体験学習や研修授業が多い月の利用者数が突出した結果となった。

平成30年度多賀城市埋蔵文化財調査センター体験館（多賀城史遊館）利用状況

| 月 | 開館 日数 | 利用総数 | | | | | | | | 利用内訳 | | | | | |
|-----------|------------|--------------|-----------|--------------|--------------|-----|-----|--------------|--------------|--------------|----------|----|----------|----|----|
| | | 一般 | | 高校 | | 小中 | | 計 | 展示 見学 | | 研修 授業 | | 体験 学習 | | |
| | | 館内 | 館外 | 館内 | 館外 | 館内 | 館外 | | 見学 | 講習 | 見学 | 講習 | 見学 | 講習 | 見学 |
| 4月 | 26 | 94 | 0 | 0 | 0 | 45 | 0 | 139 | 93 | 0 | 0 | 46 | | | |
| 5月 | 26 | 119 | 5 | 0 | 0 | 388 | 133 | 645 | 232 | 152 | 261 | | | | |
| 6月 | 26 | 82 | 67 | 0 | 0 | 87 | 195 | 431 | 77 | 104 | 250 | | | | |
| 7月 | 26 | 137 | 294 | 0 | 0 | 92 | 556 | 1,079 | 84 | 387 | 608 | | | | |
| 8月 | 27 | 155 | 64 | 1 | 0 | 175 | 28 | 423 | 160 | 69 | 194 | | | | |
| 9月 | 26 | 138 | 141 | 0 | 0 | 67 | 159 | 505 | 106 | 19 | 380 | | | | |
| 10月 | 26 | 76 | 169 | 0 | 0 | 194 | 187 | 626 | 169 | 142 | 315 | | | | |
| 11月 | 26 | 120 | 5 | 0 | 0 | 74 | 100 | 299 | 92 | 107 | 100 | | | | |
| 12月 | 23 | 43 | 1 | 0 | 0 | 53 | 34 | 131 | 19 | 6 | 106 | | | | |
| 1月 | 23 | 46 | 0 | 0 | 0 | 336 | 0 | 382 | 329 | 0 | 53 | | | | |
| 2月 | 24 | 91 | 202 | 3 | 9 | 207 | 81 | 593 | 156 | 76 | 361 | | | | |
| 3月 | 26 | 118 | 8 | 3 | 0 | 103 | 42 | 274 | 83 | 0 | 191 | | | | |
| 合計 | 305 | 2,175 | 16 | 3,336 | 5,527 | | | 1,600 | 1,062 | 2,865 | | | | | |

平成30年度多賀城市埋蔵文化財調査センター体験館（多賀城史遊館）歴史学習イベント実績

| 月 | 開館 日数 | いつでも体験（有料） | | | | | | | | | | | | いつでも体験（無料） | | | | イベント等体験 | | | | |
|-----|----------|------------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|-------|------------|-------|------|------|---------|------|------|------|-----|
| | | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | 縄文土笛 | |
| 4月 | 21 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 26 | 26 | 0 | 9 | 0 | 6 | 2 | 20 | 20 | 0 | |
| 5月 | 147 | 9 | 20 | 0 | 7 | 0 | 2 | 0 | 4 | 0 | 7 | 219 | 219 | 0 | 29 | 0 | 1 | 0 | 42 | 62 | 0 | |
| 6月 | 16 | 164 | 8 | 0 | 4 | 0 | 5 | 0 | 5 | 0 | 5 | 267 | 43 | 164 | 31 | 0 | 2 | 1 | 0 | 37 | 37 | 0 |
| 7月 | 25 | 0 | 10 | 0 | 21 | 380 | 3 | 0 | 2 | 0 | 16 | 0 | 477 | 97 | 380 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 9 |
| 8月 | 53 | 0 | 19 | 0 | 17 | 0 | 7 | 0 | 7 | 0 | 27 | 0 | 120 | 120 | 0 | 14 | 0 | 0 | 6 | 3 | 28 | 0 |
| 9月 | 149 | 0 | 9 | 0 | 5 | 164 | 0 | 0 | 4 | 0 | 25 | 0 | 268 | 192 | 166 | 9 | 0 | 0 | 4 | 4 | 22 | 0 |
| 10月 | 19 | 59 | 14 | 0 | 16 | 192 | 0 | 0 | 2 | 0 | 8 | 0 | 223 | 59 | 180 | 74 | 0 | 0 | 3 | 0 | 79 | 79 |
| 11月 | 7 | 0 | 2 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 18 | 0 | 35 | 35 | 0 | 21 | 0 | 0 | 12 | 0 | 2 | 35 |
| 12月 | 8 | 30 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 17 | 0 | 67 | 31 | 30 | 14 | 0 | 0 | 6 | 7 | 31 | 0 |
| 1月 | 14 | 9 | 8 | 0 | 4 | 0 | 9 | 0 | 3 | 0 | 10 | 0 | 29 | 9 | 8 | 0 | 0 | 6 | 0 | 9 | 14 | 9 |
| 2月 | 29 | 0 | 5 | 0 | 44 | 0 | 6 | 0 | 8 | 25 | 12 | 0 | 129 | 104 | 25 | 23 | 0 | 1 | 164 | 0 | 3 | 201 |
| 3月 | 20 | 50 | 2 | 0 | 29 | 0 | 2 | 0 | 4 | 0 | 22 | 0 | 140 | 90 | 50 | | | | | 0 | 0 | 0 |
| 4月 | 209 | 224 | 137 | 0 | 172 | 649 | 37 | 0 | 43 | 35 | 169 | 0 | 3,064 | 1,036 | 1,008 | 281 | 0 | 2 | 212 | 16 | 30 | 318 |
| 合計 | 832 | 137 | 304 | 27 | 72 | 169 | 2,984 | | | | | | 256 | 3 | 212 | 16 | 30 | 318 | 0 | | 97 | 36 |



らでんマグネット

(3) 遺跡調査報告会

名 称：多賀城市遺跡調査報告会－平成 29 年度の調査成果－

開 催 日：平成 30 年 6 月 23 日（土） 午後 1 時半～午後 3 時半

会 場：市民活動サポートセンター大会議室

参加人数：80 人

内 容：当センターが実施した山王遺跡第 183 ~ 185・187 ~ 192 次調査、志引遺跡第 6 次調査、西沢遺跡第 30 次調査、多賀城地区大区画は場整備事業に伴う発掘調査と宮城県多賀城跡調査研究所が実施した多賀城跡第 91 次調査の調査成果を発表した。



報告会の様子

(4) 歴史講座

名 称：平成 30 年度史都多賀城歴史講座

受講者数：37 人（延べ 162 人）

内 容：全 5 回の開催となった。第 29 回企画展と連動した企画であり、古代の国司とその館に焦点をあてた内容とした。企画展会期中の講座であり、展示と講座の相乗効果による理解促進を計った。国司館の特別史跡追加指定の意義を切り口として、郷土の歴史・文化への関心を深め、文化財保護の思想を啓発することを目的として、講座を開催した。

平成 30 年度史都多賀城歴史講座開催一覧

| | 開催日時 | 開催場所 | 題名 | 講師 |
|-------|---------------------------|------------------|---------------------------|------------------------|
| 第 1 回 | 10月18日（木） 18:00～19:30 | 中央公民館 第 4 会議室 | 国守館の発掘調査について | 埋蔵文化財調査センター 副主幹 村松稔 |
| | 10月25日（木） 18:00～19:30 | 中央公民館 第 4 会議室 | 古代蝦夷と陸奥国 －陸奥国司の役割を中心に－ | 東北歴史博物館 技師 相澤秀太郎氏 |
| 第 3 回 | 11月 8 日（木） 18:00～19:30 | 中央公民館 第 4 会議室 | 多賀城に赴任した陸奥国司 | 埋蔵文化財調査センター 技師 小原駿平 |
| | 11月15日（木） 18:00～19:30 | 中央公民館 第 4 会議室 | 多賀城の方格地割と国司の館 | 埋蔵文化財調査センター 主査 丹野修太 |
| 第 5 回 | 11月17日（土） 10:00～11:00 | 企画展示室 | 企画展「古代の多賀城と国司の館」 見学・解説 | 埋蔵文化財調査センター 技師 小原駿平 |



第 2 回歴史講座の様子



企画展展示解説の様子

(5) 刊行物

- ①多賀城市埋蔵文化財調査センター年報－平成29年度－
- ②多賀城市文化財調査報告書第142集 山王遺跡ほか
　山王遺跡199次調査 山王遺跡200次調査 八幡館跡10次調査
- ③多賀城市文化財調査報告書第143集 多賀城市内の遺跡2－平成30年度ほか発掘調査報告書－
　山王遺跡 西沢遺跡 新田遺跡 高崎遺跡 大日南遺跡 八幡館跡
- ④文化財パンフレット 貞山運河

貞山運河は、江戸時代に開削された木曳堀・御舟入堀と明治時代初めに開削された新堀の総称で、全長31.5kmにも及ぶ日本一長い運河である。このうち本市東部の大代地区に所在するのが御舟入堀で、江戸時代以来現在まで続く物資輸送路としての役割や、地域の生業や年中行事等の場として重要な存在であることから、『多賀城市歴史的風致維持向上計画』における維持向上すべき歴史的風致として位置づけているところである。

東日本大震災では大きな被害を受けたが、歴史・環境・景観等の魅力を有する土木遺産であることから、震災から地域が立ち上がるに大きく寄与することを目指した、再生・復興ビジョンが策定されている。

一方、埋蔵文化財包蔵地としての認知度は低く、周知のためのパンフレットも作成していない状況であった。

貞山運河の歴史的価値の周知や、利活用のあり方が求められる昨今、広く一般に配布すること目的に、埋蔵文化財としての側面も踏まえ、貞山運河に特化した総合的内容のパンフレットを作成した。



貞山運河パンフレット

(6) 講演会等への協力

| 開催日 | 題目 | 事業の名称 | 主催団体 |
|-------------|---------------|--------------|------------------|
| 平成30年6月20日 | 多賀城の歴史について | | 下馬西区郷倉学級 |
| 平成30年11月8日 | 大代地区の遺跡文化財を知る | | 多賀城市東豊中学校 |
| 平成30年11月14日 | 多賀城の歴史について | | 中部地区 民生委員児童委員 |
| 平成31年2月19日 | 多賀城の歴史について | 新田中区 老壯学級 | 新田中区 |

(7) 研究発表、執筆など

| 題目・誌名 | 依頼団体 |
|--|-------------|
| 「山王遺跡第178・198次調査」 | |
| 『平成30年度宮城県遺跡調査成果発表会資料』 | 宮城県考古学会 |
| 「市川橋遺跡第96次調査」 | |
| 『平成30年度宮城県遺跡調査成果発表会資料』 | |
| 「多賀城外の調査成果 －市川橋遺跡第96次・山王遺跡第178・198次調査－」 | 古代城柵官衙遺跡検討会 |
| 『第45回 古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－』 | |

4 資料管理

(1) 資料の貸出及び掲載

| 依頼機関等 | 依頼(貸出理由) | 貸出期間 | 資料名 |
|------------------------------|--|-----------------------|--|
| 東北歴史博物館 | 総合展示室中世の展示に利用するため | H30.4.1 ～H31.3.31 | 新田遺跡出土資料 天目茶碗、かわらけ（在地系）、かわらけ（京都系） 折敷、油器、下駄、草履、小柄、弓削刀子、帶 各1点 |
| 個人 | 『宮城史学』論文掲載のため | H30.4.26 | 『古代賛岐族』関係文書 24枚 |
| 国立歴史民俗博物館 | 国立歴史民俗博物館総合展示第1 展示室（先史・古代）でのパネル 展示のため | H30.5.28 ～6.28 | 多賀城南門復元図 1点 国守館写真 1点 |
| 平戸市 | 平戸城築城300周年記念「100名城 企画展」におけるパネル展示のため | H30.7.31 ～8.31 | 多賀城政策路写真 1点 |
| 伊達市保原歴史資料館 | 北畠顯家生誕700年記念事業企画 展「北畠顯家と喜山」におけるパ ネル展示のため | H30.8.29 ～9.14 | 多賀国府の城郭図 1点 新田遺跡の屋敷跡全図 1点 新田遺跡の屋敷跡 1点 |
| (公財)塙釜青年会議所 | 第9回アラババキの灯におけるパ ネル展示のため | H30.9.5 ～10.14 | 大代植昭和4年写真 1点 大代農繁期見况記写真 1点 多賀城碑文石碑和32～38年写真 1点 多賀城政策路昭和38年以前写真 1点 出川子坂下地区昭和51～62年写真 1点 |
| (公財)仙台市市民文化事業 団仙台市富沢遺跡保存館 | 第86回企画展「カオの考古学」に おける展示及び関連印刷物への 写真掲載のため | H30.9.26 ～1.18 | 市川橋遺跡出土人面墨書き土器 8点 人形 6点 オシラサマ 1点 |
| 伊達市保原歴史資料館 | 北畠顯家生誕700年記念事業企画 展「北畠顯家と喜山」における展 示及び関連印刷物への写真掲載の ため | H30.9.21 ～H31.2.28 | 新田遺跡出土資料22点 |
| みやぎ県民大学「生涯習 習支援者養生講座実践編」 | 2018みやぎ県民大学文教支援者養生講 座実践編における資料・チラシ作 成のため | H30.10.10 ～10.20 | 多賀城南門復元イメージ図 1点 |
| 法政大学通信教育部 | メディア授業における配信及び配 布用資料として利用するため | H30.8.1 ～8.31 | 市川橋遺跡出土紙文書写真 2点 |
| みやぎ生協協同組合 | 生活情報誌への記事掲載のため | H30.12.1 ～H31.1.1 | 柏木遺跡調査状況写真 1点 大代横穴墓群全貌写真 1点 |
| 株式会社仙台DMC | ガイドツアー配布資料のため | H30.11.26 ～11.30 | 宮城郡下郷邑天童氏屋敷 ならびに家中・足輕屋敷跡画像1点 |
| 個人 | 個人研究のため | H30.12.20 ～12.20 | 慈雲寺山門の瓦 3点 |
| 株式会社グレイル | 書籍掲載のため | H31.1.12 ～H31.1.31 | 山王遺跡調査区全貌写真 1点 新田遺跡出土状況写真 1点 |
| 株式会社吉川弘文館 | 書籍掲載のため | H31.1.15 ～H31.2.15 | 山王遺跡出土遺物写真 1点 |
| 岩手県立博物館 | 平成31年度テーマ展「古・君の クロガネ」におけるパネル展示及 び関連印刷物への写真掲載のため | H31.1.15 ～H31.2.15 | 山王遺跡出土遺物写真 1点 |

(2) 資料調査の受け入れ

| 年月日 | 調査機関 | 目的 | 調査対象資料 |
|----------------------|------------------------------|-------------|--|
| 平成30年5月31日 | 個人 | 科研費研究のため | 山王遺跡出土木簡 1点 市川橋遺跡出土木簡 1点 市川橋遺跡出土木製品 1点 |
| 平成30年9月5日 | (公財)仙台市市民文化事業団仙台市富沢 遺跡保存館 | 企画展に関する資料調査 | 市川橋遺跡出土人面墨書き土器 8点 人形 6点 オシラサマ 1点 |
| 平成31年2月13日 ～2月15日 | 個人 | 修士論文執筆のため | 山王遺跡出土土器187点 |
| 平成31年2月16日 | 個人 | 論文執筆のため | 山王遺跡出土木製品 市川橋遺跡出土木製品 |

(3) 収集(寄贈)資料

| 資料名 | 品目 | 数量 | 寄託・ 寄贈元 | 年代 | 法量(縦×横 cm) |
|------|-----------------|----|------------|-------|------------|
| 古文書 | 日本外史卷三～四 | 1 | 個人 | | 22.3×14.9 |
| 古文書 | 日本外史卷五～六 | 1 | 個人 | | 22.3×14.9 |
| 古文書 | 日本外史卷十二～十三 | 1 | 個人 | | 22.3×14.9 |
| 古文書 | 日本外史卷十四～十五 | 1 | 個人 | | 22.3×14.9 |
| 古文書 | 日本外史卷十八～二十 | 1 | 個人 | | 22.3×14.9 |
| 古文書 | 日本外史卷二十一 | 1 | 個人 | | 22.3×14.9 |
| 古文書 | 日本外史卷二十二 | 1 | 個人 | 明治29年 | 22.3×14.9 |
| 古文書 | 頭書図彙日本外史独学講義卷之一 | 1 | 個人 | 明治25年 | 18.2×12.0 |
| 古文書 | 頭書図彙日本外史独学講義卷之二 | 1 | 個人 | | 18.2×12.0 |
| 古文書 | 頭書図彙日本外史独学講義卷之三 | 1 | 個人 | | 18.2×12.0 |
| 古文書 | 頭書図彙日本外史独学講義卷之四 | 1 | 個人 | | 18.2×12.0 |
| 歴史史料 | 多賀城碑拓本 | 1 | 個人 | | |

(4) 出土資料の保存処理

木・鉄製品等脆弱遺物について、劣化防止及び形状保持のため、収蔵資料の保存処理を行った。木製品については、市単独で借り上げているPEG含浸装置を用いて、木製品122点保存処理を施した。まずEDTAを用いた脱色処理を行ったのち、50%のPEG溶液に資料を浸し、徐々に濃度を上昇させ、製品中に含まれる水分とPEGを置換した。また、市川橋遺跡出土柱材等4点については、単独での処理が困難であることから、専門の処理施設を有する業者に委託し、PEGを用いた真空凍結乾燥法での処理を施した。

鉄製品については、鉄斧や鐵鎌等の出土遺物30点について、錆取り処理を行ったのち、脱塩処理ののち、強化剤を用いて形状の補強を行った。

(5) 埋蔵文化財保存活用整備事業

平成29年度に調査資料デジタル化事業でスキャニングした写真フィルムなどの基礎整理を行った。企画展の課題として、資料の年代的な岐別・検討が不十分であり、総合的なデータと新たな知見の提示には至らなかった点等を挙げた。いずれの課題も最新の研究動向を踏まえ、収蔵資料の年代・性格の岐別・検討を十分に行なながらデータを蓄積していくことで、改善可能と考える。地域の特色ある埋蔵文化財の活用には、地域に根差した調査研究が前提となるが、収蔵資料の多くが研究に耐えうる基礎資料整理に至っていないのが現状であり、改めて台帳作成や収蔵資料の把握を行う必要がある。

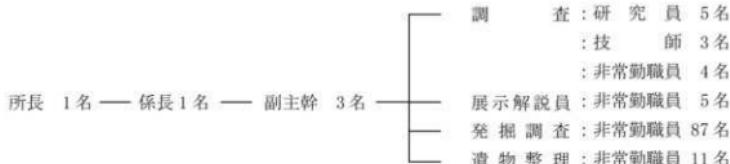
実際、2007年に埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会・文化庁がまとめた『埋蔵文化財の保存と活用(報告)一地域づくり・ひとづくりをめざす埋蔵文化財保護行政』第3章3(1)(ア)では、保存と活用を進めるための具体的な施策として「①遺跡の立地と分布の関係、②遺跡の時代ごとの特徴と変遷等を明らかに」し、「それを踏まえて地域の歴史や文化の特徴を明らかにする」ための総合的な地域研究を行うことが求められているが、そのための大前提として挙げられているのは「蓄積された成果に基づく基礎データの整理」である。今後当センターが市内で発見された埋蔵文化財の調査研究を通じて地域の歴史像を提示し、展示等普及啓発活動を企画立案していく上で根本的な課題と考える。

5 事務報告

(1) 平成 30 年度事業費内訳(実績)

| 事業名 | 支出額 (円) | 内 容 |
|----------------------------|-------------|-----------------------------------|
| 開発協議調整事業 | 259,888 | 埋蔵文化財の取り扱いに係る事務事業費 |
| 出土品等整理保存（市単独） | 494,915 | 市内遺跡出土木製品・金属製品保存処理費 |
| 出土品等整理保存（国庫補助） | 2,831,242 | 市内遺跡出土木製品・金属製品保存処理費・補助 関係庶務事務費 |
| 埋蔵文化財緊急調査事業（市単独） | 936,034 | 試掘・確認調査 公共事業・小規模開発関係調査 費 |
| 埋蔵文化財緊急調査事業（国庫補助） | 13,172,886 | 市内遺跡発掘調査費 |
| 埋蔵文化財受託事業 | 22,860,174 | 民間の開発行為に伴う市内遺跡発掘調査費 |
| 埋蔵文化財受託事業（ほ場整備） | 49,815,892 | ほ場整備事業に伴う市内発掘調査費 |
| 埋蔵文化財緊急調査事業（復興交付金） | 1,239,976 | 東日本大震災に伴う市内遺跡発掘調査費 |
| 収蔵資料整理保存事業 | 429,796 | 年報作成 書籍管理・データ入力 |
| 展示・報告会等開催事業 | 3,323,665 | 速報展・企画展等の開催 報告会・講演会等開催 |
| 埋蔵文化財調査センター体験館 管理運営費 | 4,475,216 | 体験館の施設維持・管理費 |
| 埋蔵文化財保存活用整備事業 | 545,846 | 写真等収納整理 |
| 歴史講座開催事業 | 23,197 | 史都多賀城歴史講座開催 |
| 埋蔵文化財調査センター庶務事務 | 20,366,747 | 埋蔵文化財調査センター運営費 |
| 全国公立埋蔵文化財センター 連絡協議会推進事業 | 64,920 | 総会・研修会等参加費 |
| 合計 | 120,840,394 | |

(2) 組織・職員体制



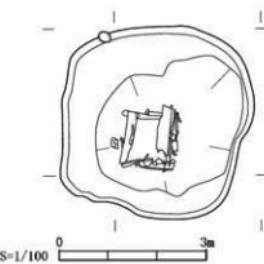
(令和元年 11 月末日時点)

附章 市川橋遺跡 SE2010 井戸跡出土の古代土器

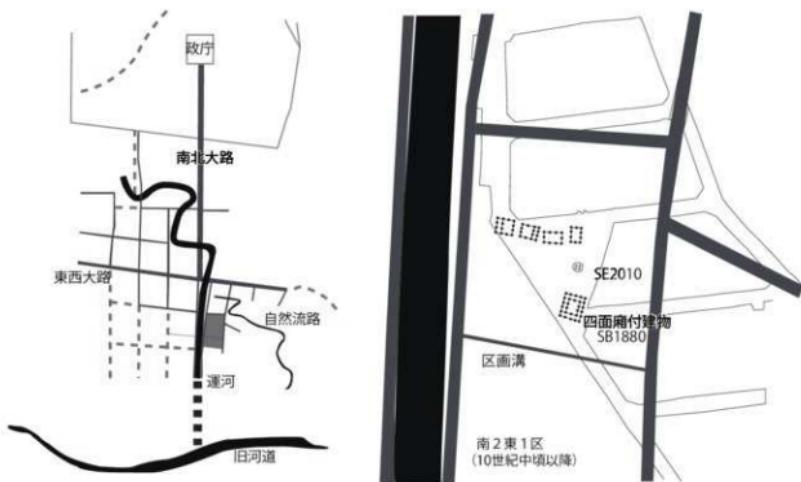
小原 駿平

1 遺構の概要

SE2010 井戸跡は、市川橋遺跡城南地区 D 区 111T で発見した横板組の井戸跡である。多賀城南面に広がる方格地割のうち、南 2 東 1 区に所在する（第 1 図）。本調査区については城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書（多賀城市教育委員会 2004）で既に報告済みではあるが、SE2010 出土遺物については、越州窯系青磁香炉を図示したのみで、井戸内堆積土及び抜取り穴から出土した在地の古代土器については未報告であった。同区画内では掘方埋土に灰白色火山灰を含む四面廂付建物 SB1880 及び 4 棟の東西棟が西向きに展開しており、SE2010 はこの建物群の中央に位置している。四面廂付建物を主屋として、一つの施設を構成していたと考えられる（村松 2010）。したがって、SE2010 出土土器は本施設の年代決定資料となる。本稿では、これらの土器を含め改めて出土遺物を提示し、井戸跡の年代と出土資料の意義について述べる。



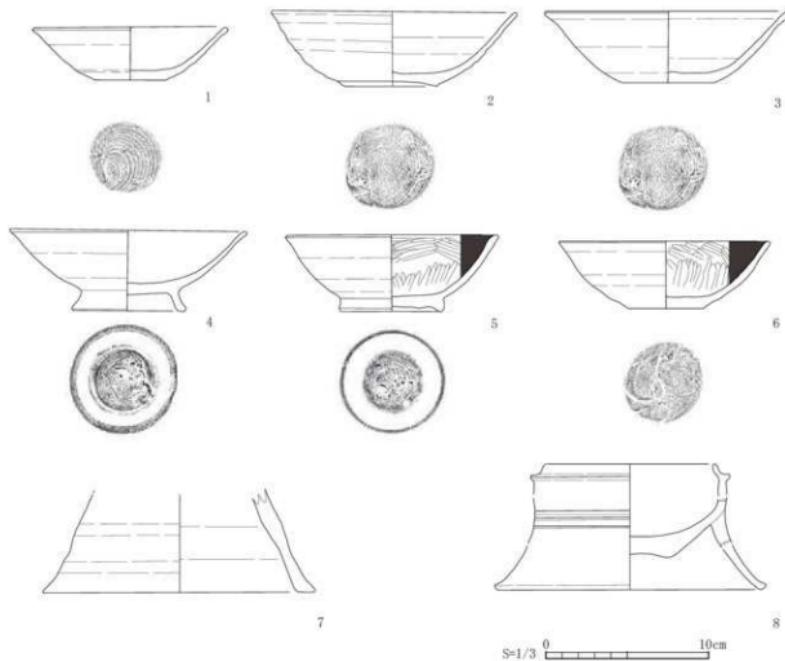
第 1 図 SE2010 井戸跡平面図



第 2 図 南2東1区模式図

2 遺物の概要

井戸内堆積土からは須恵系土器及び土師器が出土しており、須恵系土器では壺・小型壺・高台付壺・台付鉢が、土師器では壺・高台椀がある。抜取り穴からは土師器壺・越州窯系青磁香炉が出土している。こ



| 番号 | 種類 | 遺構 | 層位 | 特徴 | | 口径 | 底径 | 器高 | 周長 | 登録番号 | 備考 |
|----|---------------|--------|--------|--------------------------|------------|------|------|-----|-----|--------|----------|
| | | | | 外面 | 里面 | | | | | | |
| 1 | 須恵系土器 小型壺 | SE2010 | 井戸内第3層 | 体部：ロクロナガ 底部：四軸系切り無調整 | ロクロナガ | 12.0 | 3.3 | 4.4 | 1-1 | R-5552 | |
| 2 | 須恵系土器 壺 | SE2010 | 井戸内第2層 | 体部：ロクロナガ 底部：四軸系切り無調整 | ロクロナガ | 15.0 | 5.6 | 4.6 | 1-2 | R-5553 | |
| 3 | 須恵系土器 壺 | SE2010 | 井戸内第2層 | 体部：ロクロナガ 底部：四軸系切り無調整 | ロクロナガ | 15.2 | 5.3 | 4.2 | 1-3 | R-5554 | 内面に黑色付着物 |
| 4 | 須恵系土器 高台付壺 | SE2010 | 井戸内第2層 | 体部：ロクロナガ 底部：四軸系切り高台貼付 | ロクロナガ | 14.5 | 6.0 | 4.9 | 1-4 | R-5555 | |
| 5 | 土師器 高台椀 | SE2010 | 井戸内第2層 | 体部：ロクロナガ 底部：四軸系切り高台貼付 | ヘラミガキ→黒色処理 | 13.1 | 6.1 | 4.7 | 1-5 | R-5556 | |
| 6 | 土師器 壺 | SE2010 | 抜き取り穴 | 体部：ロクロナガ 底部：四軸系切り無調整 | ヘラミガキ→黒色処理 | 13.0 | 4.6 | 4.1 | 1-6 | R-5558 | |
| 7 | 須恵系土器 台付鉢 | SE2010 | 抜き取り穴 | ロクロナガ | ロクロナガ | - | 16.7 | - | 1-7 | R-5561 | |
| 8 | 青磁香炉 | SE2010 | 抜き取り穴 | | | - | - | - | 1-8 | 新規登記 | |

第3図 SE2010 出土遺物

のうち須恵系土器小型杯 R5552 は口径 12.0cm、底径 4.4cm、器高 3.3cm であり、口径に比して器高が低い。高台椀 R5555 は体部から口縁部にかけて直線的に外傾して立ち上がる。口径に比して底径が小さい。底部内面に放射状ミガキを施している。底部は回転糸切り後高台貼り付けである。外面に輪積み痕が残る。

3 出土遺物と遺構の年代

土器群全体を見ると、須恵系土器が主体を占め、土師器も一定量含まれている。須恵系土器が含まれることから、多賀城跡の土器編年のうち、E～F 群土器に当たる。

法量分化が不明瞭な小型杯 R5552 は、多賀城跡第 61 次調査第 7 層（宮城県多賀城跡調査研究所 1992）や多賀城跡城前地区 SK3127（宮城県多賀城跡調査研究所 2014）、市川橋遺跡第 14 次調査 SK565（多賀城市教育委員会 1994）で出土したものと共通している。これらは 10 世紀前葉頃の山王遺跡 SX543（多賀城市教育委員会 1991）や高崎遺跡 SX1080（多賀城市教育委員会 1995）よりも後出の資料である。

高台椀 R5555 は口径に対して底部が小さく、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。10 世紀前葉頃の高崎遺跡 SX1080 例や新田遺跡 SK2157 例（多賀城市教育委員会 2017）と異なり、10 世紀後葉頃の多賀城跡大畠地区 SX2449 例や SK2461 例（宮城県多賀城跡調査研究所 1998）に近い。山王遺跡多賀前地区 SE502 例（宮城県教育委員会 1996a）や多賀城

| 馬場 2018 | 古川 2007 |
|------------|------------|
| E2 | F3 |
| 市川橋 SE2010 | |
| 大畠 SK2461 | |
| F1 | F4a |
| 大畠 SK2449 | |
| F2 | F4b |
| 大畠 SX2319 | |
| 政厅 SK078 | |

第 4 図 10 世紀後半の土師器椀



図版 1 SE2010 出土遺物

跡鴻池地区第7層例に認められる深楕状の椀と同様、灰白色火山灰降下期の土器群よりも相対的に新しい段階で登場する。

また、多賀城跡大畠地区 SX2449段階で一定量含まれる口径10cm前後の小型壺が全く含まれないことが、灰白色火山灰降下期の土器群と10世紀後葉頃の土器群の中間に位置付けられるが、高台椀の形態がSK2461やSX2449と類似することから、10世紀中葉のうち、より新しい段階のものと考えておきたい（註）。南2東1区に成立した四面廂付建物を主屋とする施設群についても、およそ同時期のものとみられる。

ところで、近接する多賀前地区の様相を見ると、遣り水道構を有する国司館が所在した南1西2区（B3～B4期）は、前段階よりもかなり計画性の乏しい区画となっており、区画全体の性格が変化した可能性が指摘されている。同様に北1西3区（B4期）においても主要建物の抜き取り穴等に灰白色火山灰の堆積が認められ、多くの建物が火山灰降下以前に廃絶したものとみられている。一方で今回報告した南2東1区と運河を挟んで対岸の関係にある南2西1区（D期）において、三面廂付建物や二面廂付建物を有する計画的な建物配置が成立している（宮城県教育委員会1996b）。

以上のように、10世紀前葉以降、東西大路から離れた区画において、前段階で認められなかった格式高い建物群が営まれていることが分かる。こうした空間利用の推移は、国衙機構の変質や城内官衙施設の消長と係るものと考えられる。方格地割を形成する道路網の変遷については、既にいくつかの研究がなされているが、今後は方格地割内における空間利用の変遷についても検討していく必要がある。

註 高橋編年ではE1群（山王遺跡SX543 etc.）とF1群（多賀城跡SX2449 etc.）の中間に位置付けられるE2a群土器の実年代について、多賀城跡第21次調査SK473で出土した平安京III期古段階（960～980年頃）に併行する近江産錆釉陶器皿から、10世紀後半頃としている（高橋透2018）。

参考文献

- 多賀市教育委員会 1991『山王遺跡－第9次発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第26集
多賀市教育委員会 1994『市川橋遺跡ほか－平成5年度発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第35集
多賀市教育委員会 1995『高崎遺跡－第11次調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第37集
多賀市教育委員会 2004『市川橋遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書III－』多賀城市文化財調査報告書第75集
多賀市教育委員会 2017「V 新田遺跡第115次調査」『多賀城市内の遺跡2－平成28年度ほか発掘調査報告書－』pp. 30-50
高橋透 2018「陸奥国府城における10世紀の土器様相」『宮城考古学』第20号 pp. 187-206
古川一明 2007「IV. 多賀城跡の11世紀～12世紀の土器について」『宮城県多賀城跡調査研究所年報2006』pp. 72-79
宮城県教育委員会 1996a『山王遺跡III－仙塩道路建設関係遺跡発掘調査報告書－多賀前地区遺物編』宮城県文化財調査報告書第170集
宮城県教育委員会 1996b『山王遺跡IV－多賀前地区考察編－』宮城県文化財調査報告書第171集
宮城県多賀城跡調査研究所 1992『宮城県多賀城跡調査研究所年報1991』
宮城県多賀城跡調査研究所 1998『宮城県多賀城跡調査研究所年報1997』
宮城県多賀城跡調査研究所 2010『多賀城跡 政庁跡 補遺編』
村松稔 2010「多賀城外の方格地割り」『発掘調査からみた古代地方都市の諸要素』 pp. 30-42

多賀城市埋蔵文化財調査センター年報

— 平成30年度 —

令和元年12月25日発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター
宮城県多賀城市中央二丁目27番1号
電話（022）368-0134

発行 多賀城市教育委員会
宮城県多賀城市中央二丁目1番1号
電話（022）368-1141

印刷 株式会社工陽社
宮城県塩竈市尾島町8番5号
電話（022）365-1151
